物産雑説

甲殻類 附 六脚虫類

三十一

A 00
5764

甲殻類 六脚虫

東京大学総合図書館

No. 32

蟹類　相州横須賀ノ海産　十七年八月

一スナガニ　乾潮ノ沙上ニ孔ヲ掘リ棲ム其孔ハ直ナリ又人ヲ見テ隠レ、中掘ルニ螺旋状ヲ旋リテ孔ヲ掘リアルハ　捕ル者ノ深ニ甚多シ捕テ釣餌トス　深海ニ又スナガニト異リ故ニスナホリガニト区別シテ称ス

一カマガニ　潮水退キシ泥沙中ニ孔ニテ居ル其孔横ニ斜ニ向フ故ニスナガニノ孔ト異リ　其甲牽大ノ差

一ドロガニ　俗名　カニト同様ノ者居リ形モ一見混シ易シ其身泥中ヲ好ミ　泥ヲ搔リテ多シ　カニハ毒ナリ

牽大ノ足ハ　カニニ似

一アブラガニ　甲上平面ニシテ鮮ニシテ　其紋理一様ナラス　或ハ代油

A00
6764

東京帝國大學圖書

B 45224

男爵田中芳男氏寄贈
先代田中芳男旧蔵書
昭和七年

東京大学総合図書館

色ノモノ細斑駁ノモノ白色ノモノ白斑ノモノ灰斑ノモノ等一定ナラズ又
形ニ大小アリ稍ツ一寸ニ足ラズ他ノ蟹ヨリ見レバ小ナリ潮退キ見エテノ
石下小凹所ニ多シ至テ食餌ヲ食スルナリ

一イシガニ　潮水退キ浅キ所ノ石下ニ居ル堅キ又掴ニ捕
ハ鋏ニ似テ小ク甲ノ両端ニ尖起ノ刺アリ形ハ常ノカザミ
ノ甲ニ似タリ見レ捕テ久ク置ケバ灰色ニテ赤ク至ハ肉食ヲ減ズレバ
迅速ニ動キテ逃ル故ニ此節ヲ動ヲ捕フ　大ナルハ甲ノ経二寸余アリ

一イセエビ　此節動ヲ捕フ　但シ海中ノ赤色ノ物ニ多ク螯脚ノ間
挿ミ入之ヲ余夜ニ久シク化生スルト云　雌ノ後脚ノ爪ハ拡上
大ニシテ居リ小蝦ヲ挿ス故ニ常ニ知ルベシ

紙
儀
扱

一ベンケイガニ　海辺潮水ノ或ハ浸スル所ヨリ少シ上ノ方人
家ノ庭田圃ノ辺又山林溝辺等随テ海ヲ距ル事
下ニ穴ヲ穿チ石間樹下等ニ隠レ棲ミ食ヲ捜シ常ニ
甲ノ赤色ヲナスモノナレ氏又良ク肥エタル時ハ小ノモノハ全ク灰斑
ヲナス又全身灰赤色緑黄ヲ帯ブル者アリ淡水ニ又海水ニモ
ヘリテ平気ナレ氏陸地ノ陰湿之所ニ居ルヲ彼ノ適所トス
此蟹ハ黄色ニシテ水ヲ離レテ永ク生キヨク宿ス事ナク常ニ全直
ナ斑ニ水亀ヲ沢テ食物トナリ児童ニ愛玩セラル潮水ノ
河辺ノ石垣間草間等ニ居ル事多シ大阪ニテハ油蝉トナヅケ
云フ佐渡ニテハ名物蟹ノ塩辛ヲテニガザミニテ別物ナリ

御調産地ハ宮島ノ他 [illegible]

一 クルマエビ 織細ノ鬚アリ長二寸許アリ 尾ノ末青斑アリ
其ウカク後脚上ニ夜間ニ光ヲ發スト云フ
一 シバエビ 五分大ナリシ方形
一 コエビ 上同 甚ハ海陸處ニ多シ 淺黒色ナリ 尾ニ至テ紅赤ナリ（シラエビナリ）
一 アシアカエビ 上同 深緑色ノ少較ナリ 外ニ一種黄色ノモノアリ 形甚異ナリ
一 アカエビ 上同 肥太ク緑紅色大ニ陽ヲ淫ニ其如シ
一 シヤコムシ 上同 緑色ト赤色トノ二種アリ
一 フナクヒムシ 上同
一 カリエビムキ 小蝦

紙儀板

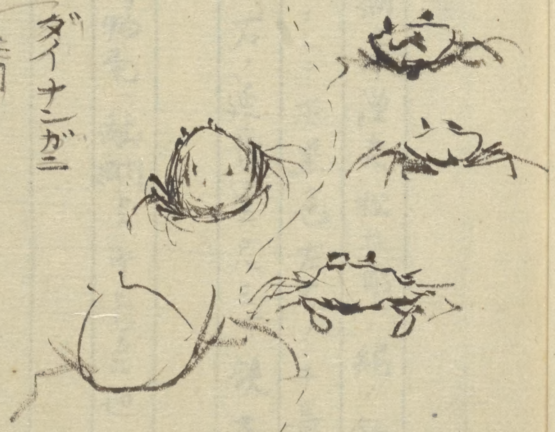
蟹ノ屬ニ小ナル者有リ、Pinnotheres（ピンノテーレス）ト曰フ、大サ約三四分、其匡脆軟ニシテ破碎シ易シ故ニ雙殼類ノ鰓邊ニ寄居シテ之ニ滲入スルトコロノ水中ノ微蟲ヲ獲テ以テ食トス閩書ニ云ク有寄生蟹、生蠣房蚌蛤腹中、又タ西漢書地理志ニ、鄞縣有結埼亭、顏師古カ註ニ、鮚音結、蚌也、長サ一寸廣二分、有小蟹、在其腹中、埼曲岸也、其中多鮚、故以名亭トイフモ是ナリ、諸國ノ海壖ニ出テ數種アリ日本ニ產スルモノテムミンク之ニP. Pholadisノ名ヲ命セリ、桉ニ西施舌ノ間ニ寄生シ、ナル可シ、又地中海ニ產スル者ハP. veterumト曰ヒ玉珧ニ生

ズ、昔時希臘、羅馬ノ人謂ラク、玉珧眼無リ亦タ動
行スル無シ、一ニ蟹ヲ待テ、其食ヲ得、蟹モ什ヲ籍
テ居ト為シ、相依相附、猶ホ親友ノゴトシト、歌ニ
詠シ詩ニ賦シ、其名顕著ナリキ、蓋シ和漢所言ノ
水母、鰕ヲ以テ迷ヲ導カシムルト同一ノ談ナリ

右ハ加奈川横濱堅田ノ漁師ハ蟹ヲ以テ魚ト称スル人アリ上田
英吉白石ノ注ヲ写セシナリトゾ　片山直人君手せんう写
十三年二月十五

加奈川ノ吉田新田ハ旧幕ノ時牡蠣ヲ養シモノニテ今ヨリ大ナルハ稀ニ
及ブ又田中中洲ノ辺ハ泥上ニ轉ゴスモノ殻厚クシテ幅モアリ径寸
モアリ　片山氏ノ話ニ因テ天度邸ト関保氏ニ言フ　右ノ通話ス

明治十三年三月
大坂 賀島氏
活ノ写生



ダイナンガニ
紀州ノ名
大坂近辺ハ秋月
細魚ヲ捕ル網ニ入リ来ル
コブシガニノ如ク脚細長ナリ

ダイナン蟹 方言

明治十七年十月二日相州梅ヶ浦漁夫松五郎ノ縄ノ鈎ニ
カヽル全體ノ重サ三十二匁ニシテ灰黒色左右ノ手長五寸
強三角ニシテ大刺アリ左右ノ延長壹尺三寸鉄大小
アリ左右均シカラズ
右片山氏ヨリ来ル 博物局ノ献納スル所トヒシガニ也

伊豆国加茂郡 [illegible]
川海老取ル漁人ノ網

右ハ[illegible]
但シ二三尺ノ竿ニ[illegible]
川海老ヲ押ヘ[illegible]
之ヲ[illegible]
[illegible]

東京大学総合図書館

カニツケガニ

肥前杵島郡白石郷沿海ノ浅所ニ生ス 俗ニカワツケガニ
ト訛言ス云ヒ 備筑後川ヲ サツコガニトスコト如シ 是其方言ノ常習ナリ
其蟹タル 従来甲殻ノ泥肉ト共ニ砕キ番椒ヲ夥シク加ヘテ
塩辛トスルニヨリ 蟹漬蟹ノ名アルノミニシテ他ノ称アルヲ知ラズ
ト佐賀人ノ説ナリ 此蟹ハ左右螯ノ内一個非常ニ大ナル
ノハ曽テ塩辛ヲ食シテ知リタリ 全形ヲ見ハ今日ヲ始トス
紀州者ノ産ト異同如何ニ 左右ノ大小ヲ見テ雌雄ヲ分ツ
トスヲ 其大螯ハ以テ防禦ノ具タル 尚他ノ蟹ノ如シ 又々
此蟹ハ退潮ノ泥ニ孔シテ棲ムト然モ豫メ孔ヲ塞クベキ泥
塊ヲ作リ孔辺ニ備ヘ置キ 潮来ラントスルヲ測リ知リ身ヲ
孔中ニ入レ大螯ヲ以テ其泥塊ヲ鉗ミ孔ヲ塞キ潮ノ難
ヲ逃レ孔中ニ棲ス 其小螯ハ食物ヲ口ニ送ル具ニシテ猶

食膳ノ箸　洋食ノ叉子ノ如シト云フ

今日真崎健氏ヨリ火罔匠ノ傳ヲ始メ実物ヲ見又同氏ノ
従者坂田秀雄氏ノ話ヲ聞キ併セ録ス

脚ヲ合セテ長
サ寸口分四
甲ハ三分位
并ニ三対脚
大ニシテ扁平ニ
毛アリ游泳ニ
使ス　差尾ハ
小ク雌モ夫
雄ノ差ナシ

奥州ノ亀ハ鴻ノ通ヌ
モノニシテ形ハ扁平ノ
ヒラ一位ナリ形状ハ
鮫ノ似タリ

真崎氏ヨリ来臨ニテ肥前産カニツガニ
ト云ハ伯州産テニボウガニト比スル處
伯州産ニハモノハ其甲淡黒ハ淡藍色ヲ帯テ白
帯ヒ甲ノ中央ハ凹キ所アリ肥前産
ノモノハ甲ノ凹キ一所ニテ浅ク弱キ無キガ
如シ　又其甲ニ唐草様ノ隆紋アリ
其他異ル事無シ又阿波ノ産ニテ
方言ヤリモチガニ爪（テニボウガニ）ト比スルモノ

浮鯉ノ酒浸ハ九月大日水産博覧會博物局天産課ヘ出シ
吟味セシム
松原新之助氏曰千葉縣下房総鯉漁夫ノ地ニハ鯉魚ノ
来ル中海面黄紅色ヲ生ス是ヲコマセト云フ又此ノ如キ蝦ノ集

食合淀

甲ノ四ヶ一冊又脚絵等全ク同物ト
存候へ申候
右先日閲覧世話被成下候申上候
頓首

十六年十二月十六日　田中房種

田中芳男様

明治十六年十二月十二日

田中芳男

浮蟹（ウキガニ）　淡路播磨等ノ方言ナリ　十六年九月廿九　田中記

明治十六年九月関沢明清氏播磨ノ沖ニ渇テ携帰リ示シテ曰
此小蟹ハ紀州ニテ　ウタ瀬網ニ罹リ揚ルヲ見タルハ七月ノコトナリ
其後淡路ニ於テ此蟹ノコトヲ聞キ其後小汽船ニテ渡航スル時海面
ニ浮ヒ又入ヲ拘ヒ捕ヘタル其ナリ　此モノ海面ニ二三寸ノ厚サニ浮游ス　色ハ浅
黄色ナリ　捕ヘテ肥料トストナリ　此若ノ浮ムハ八九月ノ候ニシテ他時ニハ之
トヅ　水野西連氏曰　泉州岸和田ニテ見ルハ　形　播州沖ノモノヨリ
頗ル小ク　今年水産博覧会ニ三河産ノ出品スルニ近シトナリ　此ノ者ハ
乾物トシ野菜畑ニテ其他ニテ肥料トストナリ
浮蟹ノ潤沢ハ九月大八日　水産博覧会ノ掲載句　天産部ニ
吟味ナシ
松原新之助氏曰　千葉県下房総舩澳ノ地ニハ　魚奥ノ
東ノ中　海面　薄紅色ナル　蟹　コマセトナリ　アリ　如キ　蝦ノ集

脚ヲ合セテ長サ寸口分四
甲ハ三分程
第二三対脚
大ニシテ扁平
毛アリ游泳ニ
便ス　差尾ハ
小ク蝦モ夫
記ノ差之

泉州ノ者ハ鴻ク近ヌ
モノミニテ形ハ飛尾ノ
四分一位ナリ形状ハ
此ノ似タリ

農商務省

東京大学総合図書館

浮鰹ハ云紀備ノ大阪ニ航行中明石灘ノ向ニ夥多浮ムヲ栖ヲ以テ杪ヒ捕ル所 八月廿六

モノニシテ鰹ノ來ル色ニ此ニ梅ノ色ニシテ鰹ハ之ヲ逐ヒ食スルナリ
トテ故ニ鰹ヲ釣ル餌ニ用ル鰹ノ逐シテ来ニコヰモヲ捕リテ
浮中ニ撒シ鰹ノ集ルヲ捕リテ鰹釣ノ餌ニ用ユ又鰹ハ
海ノ泡ヨリ生ストテ云フ説アリ其ハ鮑ノ卵子海面ニ浮ヒ来ルノ色ヲ
指シテ云フナルベシ云々

蟹質問

原市造
福崎嘉三郎

水族誌ニ云海蛙蟹ナル哉
土佐国浦戸沖ニテ網ニアミナリ
タメハ一七ノ劉管十リ明治二十年
三月上旬

日東魚譜ニ図
アリ
丹洲虫譜
唐ノ蟹 佐州方言
江ノ島海中ニモ
甲殻ヲ…アリ
…ノ…ノ…
…
蟹譜曰 蟹…
長…
之蟹

セミガニ

右土佐浦戸沖ニテ網ニ羅リシモノヲ見ルニ セミガニト称スル
モノナリ 此名ハ物品識名拾遺ニモ見エシヨシ 怡顔斎介品ニ従
モノアリ 図ニ見ヘタリ 東京近辺ハ相州ノ海ニテ獲ルコトアリ
故ニ江ノ島ノ介店ニテ見ルコトアリ 素ヨリ澤山ニハナク珍ラシ
形ノ奇ニシテ色澤ノ美ナルヨリ人ニ珍賞セラル セミガニノ
称ハ形ノ蟬ニ似タルヨリ名ヅケシモノナリ 更ニ土佐ノ産ハ
江ノ島産ニ比スレバ甚タ巨大ニシテ大ナルガ如シ 其他ハ…
土佐ノ産 両眼両…シ 蟹ノ中部ニ一刺アリ 腹部…甲辺刺ナシ
江島産 両眼両開シ 蟹ノ中部ニ二刺 腹部…甲辺両頰各一刺アリ
明治二十年十月十五日 田中芳男記

蟹ノ質問ノ答

本年三月上旬土佐国浦戸ノ沖ニテ網ニ罹リ上リタル奇蟹
一個ヲ高知県造士…質問ニテ 有功田 ~~…~~
ガ留守宅ヘ届ケラレタル蟹ハセミガニト称スルモノニテ其形ノ蟬
ニ似タルヨリ 余モ之ヲ知ル 東京近辺ニテハ相模ノ海ニ産スルアリ
江ノ島ノ介店ニテ見ルコトアリ 其甲殻堅ク色澤美ニシテ奇形
ナルヲ以テ人ニ愛玩セラルヽモノナリ 図譜ハ怡顔斎介品 日東魚譜
栗本丹洲虫譜等ニ見ヘ 又物品識名拾遺ニ出シ名ヲ称シテ
云ヘテ 丹洲虫譜ニハ佐州ニテ タカセガニト呼フコトヲ云ヘ 蟹譜
ヲ引テ 蟹ハ之レナリト 但シ土佐ノ産ト相模ノ産トニ…

東京大学総合図書館

黒八子アルニ大ナル差ハナキナリ
明治六年十一月十　田中芳男記
但シ原図ニ水族志ヲ引キ海蜂蟹トスルハ誤書
中ニ且有之者アリ手ニシテ原図ニ写ス
福島氏ノ手ニ図ス

ヤワラガニ　赤　ツクモガニ
相模三浦郡横須賀ノ海産方言ヤワラガニ去ル明年
三月六一日片山直人君ヨリ得テ一ヲ博物館ニ献ス一ツ尚
生セシ後自ラ所蔵ス是ハ浅地ノ島辺ノ海深サ四
尋位ノ底ニ棲ムト云フ此節ハ集リ居レバ漁网ノ網ニカカル方言
成長スレハ散ス八田甲ノ大サ経二寸弱横寸許ナリ
此蟹形ヲ全面猩刺トモ云フ一名モツクガニト云ヘ又藻ニ
叢生スモクヅガニトハ別ナリ其形ハ鱒ノ如キ小蟹スガニ
ニ似テ蟻ニ数多ナリ是ハ浅地方ニテ食用トスルモノナリト
或人友龍ヲ見テ曰□□□下産ノ食用蟹ヲ皆是

淺岳曰今年ノ宮田頼ハ
陸前ノ方言
カイヘチ
是ハ淺瀬ニ
トテ云ク
外ニ巨蟹アリ

ナリト目ナ仙臺ノ溝口耕一氏ニ就テ一月中旬ニ三個ヲ
送リ来ル 經壹寸八分 横壹寸弱 相州ノ産ニ異ナルコト
ナシ 陽暦ニテ来レリ 産地ハ 陸前宮城郡塩竈ノ近傍
砥上ケ濱ノ由 方言 ツクモガニ ト云フ 専ラ食用トナス
此等ハ如此小ナレ二三月頃ニナレハ 尚大形ノ者ヲ産出
ス之ニ次ク 右三個ノ内一個ハ 打和縄ニ試ミ二ケハ
排放シ 塩気ヲ抜キ 乾燥シ 貯フ
三月ニ至リ 最モ多ク之ヲ見ル スクモガニ也 是ハ浮キ渦流ニ生ズル所ニシテ大皇綱ニ至ル 渉邏日 本吉気仙ノ海ニ多シ 甚
大ナルハ 經三寸ニモ至テ多ク捕獲キ 食ス 又甲ノ内ノ黄肉ヲ取リ 味ヒナリ
明治二十年二月二十三日 田中芳男記

紙儀板

チャウスガニ　安房館山ノ名 大三年旬 田書記
北條ノ海濱 潮ノ浸ス沙中ニ 穴ニテ 捷ケ所ノ小蟹 方言
チヤウスガニハ 淺瀬邊ノ小蟹ニテ 敏捷且怜悧ナリ
人ヲ見レバ忽チ穴ニ入リテ得ベカラズ 大サ一寸許小ナル
其手ニ泥ヲ以 滞タル 砂ヲ 掘リテ 穴ヲ作ル 其沙ヲ丸メテ
蟹子 住ミタル大ナルモノトシタルヲ 持ケ出シ 穴ノ出ニ 捨テ 放セリ
沙上ヲ徘徊シテ 食ヲ求メ 物アレバ 穴ニ入ル 甚迅速ナリ
捕ヘ 養フニ 數日間 生キタルナリ

ベンケイガニ

北陸鉛山ノ辺河邊又田野ノ溝渠等ニ多シ雄雌相較ルニ其ノ雄ハ赤色鮮美ニシテ螯大ク雌ハ暗褐色ニシテ腕ノ螯小キモノナリ

ムラサキガニ　房州産

タカアシガニ　又　アシタカガニ

学名　Inachus Kaempferi Sieb.

相模ノ海底百尋許ノ深處ニ棲ム蟹ニシテ冬期延縄(ハエナワ)ヲ以テ他ノ魚ヲ捕ヘ釣ニ懸リテ揚ルモノナリ此蟹ハ蟹蝦類中ノ大ナル種類ニシテ最大ナル者ハ両螯脚最長大ニシテ其長サ九尺許殻ノ大サ一尺余ニシテ両脚ヲ伸ハスサハ一丈餘ニ達ス実ニ我邦中最偉大ノ者ニシテ世界各国ニ於テモ之ニ及フヘキアラスト聞ク此脚内ノ肉甚タ美ナレハ人ノ之ヲ賞スレト北海ニ産スルイバラガニニ於ケルガ相模ノ漁村ニテハ往々此甲殻ヲ家ノ燈ニ吊ルハ魔除ノ呪ナリトテ而シテ或ハ之ヲ平家蟹ト称スレハ真ノ平家蟹ハ至テ小ナル蟹ニシテ

東京大学総合図書館

天保八年
坂本純沢 著

ベンケイガニ

之下会ノ図ヲ 漢名未詳 又此蟹ハ相海ノ産 薩州 名アカテガニ
北海ニ産ス 此ノ知ラナシ 此年ノ三月 宮崎県ニテ同所ノ会ニテ図
ヲ見テ之ヲ出シ 日向ノ海ニモ産スルコトヲ知ル 大和本草ニ載ス ヘイケガニ
ヘイケ 手長三尺有節 螯ノ長サ一寸 其間ニテ ト云フ 本草綱目ノ蟹ニテ
タカアシガニニ近シ ナリト 本草綱目啓蒙ニ見ユ
遊歴雑記 ヒラテガニ
此蟹図ヲ 壬申四月 若州 苗原寺田氏 二尺許 長サ一尺
甲子夜話 往昔 享保十五年五月大阪 経
蟹譜 江都ニ大王許ニ

明治三十年二月十四日

相模国
ナリ
出ス
界名国
其ス

郵便往復はがき
（返信）

東京市本郷区金助町七二
田中芳男様
中沢孝治

天保八年 坂本純沢 書

之下全ク異ナリ 混ズベカラズ 又此蟹ハ相海ノ産 蕃舶 [illegible]

此小海ニ産スルヲ知ラズ 此年二月 宮崎県ニテ同国ノ会稽[illegible]

ヲ見ザリ 此人ハ 日向ノ海ニモ在ルコトヲ知ル 大和本草ニ載ス [illegible]

蟹 手長三尺有節 螯ノ長サ八寸 此国ニテ [illegible] 李時珍 綱目ノ蟣[illegible]

タカアシガ[illegible]

西[illegible] 此蟹 [illegible] 甲有刺 [illegible] 蝦夷[illegible] 長一丈 大蟹 経

タカアシガニ

先叔 (Inachus Kaempferi) [illegible]

[illegible] 本県 宮崎 [illegible] 南那珂 [illegible]

[illegible]

二月 [illegible]

高脚蟹(メカアシガニ) 一名 脚高蟹(アシタカガニ)

相模国ノ海底ヨリ出ル [illegible]

ナリ 此蟹ハ 蝦 [illegible]

[illegible] ノ 大サ一尺余ア [illegible]

[illegible] 国ニ [illegible]

[illegible] ハ「イバラガニ」[illegible]

ナリト云フ 而シテ [illegible]

[illegible] 又此蟹 相海ノ

[illegible]「タカアシガニ」手長三尺

[illegible] 西 [illegible]

[illegible]

天保八年
坂本純沢 著

之下全ク異ナリ 泯ヲ［illegible］ 又此蝦ハ相海ノ産 蓋来 名ヲ［illegible］
此海ニ産スルヲ知ラサルカ 此年三月 宮崎縣ニテ同由ノ［illegible］個
ヲ見ヲ［illegible］ 日向ノ海ニモ産スルコトヲ知ル 大和本草ニ載スル タカアシガニ
［illegible］ 手長三尺有節 鰲ノ長尺 此図ニテ［illegible］ 李時珍 綱目ノ蠟［illegible］
タカアシガニ

タカアシガニ
先殺（Inachus Kaempferi）［illegible］
［illegible］
［illegible］
産地 本縣宮崎郡及南那珂郡沿岸殊ニ南部
［illegible］ 多シ
捕獲者 底刺網 ［illegible］
［illegible］
二月 ［illegible］

迦 ［illegible］
此蟹 ［illegible］
甲有刺 ［illegible］
蝦夷 ［illegible］ 長一尺 ［illegible］ 大 ［illegible］ 経

高脚蟹（メロアシガニ）一名 脚高蟹（アシタカガニ） 学名

相模国ノ海底百尋許ノ深處ニ棲ム蟹ニシテ名聞ニ延縄（はえなは）ヲ以テ底魚ヲ［illegible］
ナリ 此蟹ハ蝦蟹類中ノ大ナル種類ニシテ其最大ナル者ハ両螯脚最長［illegible］
甲殻ノ大サ一尺余アレバ両脚ヲ伸バセル片ハ一丈余ニ達ス 実ニ蝦蟹類中［illegible］
異邦国ニ於テモ之ニ如ク者アラズト聞ク 此脚肉ノ味美ナレバ人［illegible］
食スル「イバラガニ」ニ於テ人似タル相模ノ種蟹ニテハ性ニ甲殻ヲ家ノ［illegible］
ナリトシテ而シテ殻ハ之ヲ手家殻ト称スル［illegible］ 其ノ手家殻ハ全テ小［illegible］
［illegible］ 又此蟹相海ノ産 ［illegible］ 此年宮崎縣ニ於テ日向海ニ［illegible］
［illegible］ 「ガモ」 手長三尺 鰲長尺寸 此図［illegible］ 人［illegible］ 李時珍 綱目ノ蠟［illegible］
綱目 ［illegible］ 迦 ［illegible］ 大保八年 坂本純沢［illegible］ 蟹ハ［illegible］ 四月 ［illegible］
一丈 ［illegible］ 三月 大蟹 ［illegible］ 之 ［illegible］

高脚蟹（タカアシガニ） 一名 脚高蟹（アシタカガニ） 学名

相模国ノ海底百尋許ノ深處ニ棲ム蟹ニシテ延縄（ハヒナハ）ヲ以テ底魚ヲ釣ル鉤ニ懸リテ揚ル者ナリ此蟹ハ蝦蟹類中ノ大ナル種類ニシテ其最大ナル者ハ両螯脚最長大ニシテ其長サ九尺許甲殻ノ大サ一尺餘アレハ両脚ヲ伸ハサハ一丈餘ニ過キ実ニ蟹類中ノ偉大ナル者ニシテ世界各国ニ於テ之ニ比スル者アラズト聞ク此脚殻ノ肉味美ナレハ人之ヲ賞スルコト北海ノ産スル「イバラガニ」ニ於ケル如シ相模ノ漁夫ニテハ往々此甲殻ヲ家ノ楣ニ吊ルハ魔除ノ為メナリト云フ而シテ或ハ之ヲ手長蟹ト称スレトモ眞ノ手長蟹ハ全ク異ナ「リ」又此蟹ハ相海ノ産ト称スルモ [illegible] 昨年宮崎縣ニ於テ日向灘ヨリ又大和本草ニ「寄ヤガニ」手長三尺 [illegible] 北国 [illegible] 李氏綱目ノ蠘ニシテ高脚蟹ト李手綱目啓蒙 [illegible] 四月 [illegible] 一丈許 [illegible]

之ト全ク異ナリ混スベカラズ又此蟹ハ相海ノ産 [illegible] 此海ニ [illegible] 知ラレ [illegible] 昨年三月宮崎縣ニテ同国ノ [illegible] 日向ノ海ニモ在ルコトヲ知ル大和本草ニ載セテ「ガニ」ヲ見ル [illegible] 手長三尺有餘 [illegible] 北国ニテ [illegible] 綱目ノ蠘ニシテ

タカアシガニ
先蛇（Inachus Kaempferi）[illegible]
[illegible]
[illegible]
産地本縣宮崎郡及南那珂郡 [illegible] 南部
捕獲器 底刺網 [illegible]
[illegible]
二月 [illegible]

マツバガニ

六日年四月ニテ 同志ノ諸ワキ、北ニ 田中

明治二十四年四月一日 何某ノ吟但馬地方巡廻シテ帰ヘニヨリ尋ネ

来リテ曰 但馬ノマツバガニ ハ雄ノミニテ雌ナシト云 但馬人ノ云フ

所ナレハ今回数十個ヲ得テ検セシニ 一ノ雌アリ 又人ノ云ナシ 此ノ剥

ニ 子持蟹一分 雌蟹ト云フ 形似タレトモ只品也 是ハ一ノ族ナリ

又人アリ 数ニ 此方ニハ多ク 細キ 鋏ニ 色ノ赤キト 白キト 紫黒

ノ色アリ 赤キハ生年 ニトシ 又人ノ云 白キハ 老蟹

ハ 味悪シ 食スルコト少シ 擂テ鉢ニ 汁肥トナス 此ニ

紫黒色ノ細ク軟カナル 女郎ノ髪子 子ニ擬スル也 又 脚

肉ノ味ハ 食スルニ足ル 脳黒ニ 軟ニテ 利用ト云フ 但

越後たらば苗に 一

此儀ハ…

ズハ…

…

…ノ肥料ヲ以テ又稲ノ色悪シ…

…

又肥料…

…年…月…

ズバイ蟹

此蟹ハ石川加賀川ト云フ所ニテ捕獲ス 北海ノ物ナリ 此モノ云々 此ノ蟹ハ京ニテ多ク [illegible] 大ナルモノハ甲一尺ニ [illegible] 此種ヲ [illegible] ノモノヲ捕ヘ [illegible]

与謝ニ曰ク此種ナルニ又稲ノ色ヲ見テ蛇蟹ト曰フナリ

云々

此種ノ蟹ハ実ニ [illegible] 同ニ [illegible] 蟹ノ [illegible] 足之ヲ [illegible]

又此種ヲ售人捕ヘテ [illegible]

丙午四月十二

乍極々難儀之中モノ之候て
御用之節ハ御出被下度奉存候
拝見候様ニ而内々御
賢兄之事も御座候間
可然御取計之内御聞
為急不取敢如此候 早々
頓首 謹言

三月十七日
二十二年

阿中先生

謙 一

上京下拙方ヘ参上致候 御手紙
大坂ニ在拝見致御返事
ニ而御座候 不取敢
太兵衛方ヘ申遣 御用
御申付可申上候 以上
四月十四日

尚〻此品ハ時候ニ付手も貴家御好ニ付
御出被成候大畑(?)ハ鱣雲丹漬物今少(?)宜敷
可差遣候得共寒中ニ付一鑵差上候宜敷御由御承知
被下候得共当方へ遣候御申上候
大坂表上様之御注文之趣不申遣候追而
之事ニ御座候ニ付薄々御伝申上候
大坂府中之御答申上候
御付申上候之御用事候得ハ
早々頓首
四月十四日

福井翁

鱣雲丹

一 極上 鱣 …

郵便はかき

本□□区金吹町
七十二番地
田中芳男様

駒込上三番□□番地
松平□之

此表面ニハ宛名而已ヲ書スヘシ

東京大学総合図書館

蟹鮞乾

昨夕双載ノ筋腸ハ至テ筆力ニ上品ナルモノニ御座候 デンブハホタテ貝ノ柱ニ御座候ヤ食ヘトヒ味明瞭ニカタシ

一越中産蟹卵乾物ハ清國産蝦子ニ形状甚タ似タリ此蝦子ハカニノ卵乾シタルモノニテ之ヲ玉蘭片（竹ノ子ノオカナヲ蒸乾スルモノ）ト共ニ羮ヲ為ス料理ニ用ヒ貴ヘモヨロシ價百斤二百円餘ノモノナルワハ曽テ陽氏ヨリ承リ候アリ

一支那貿易品解説ハ委細寄明細御望（合）ニテ有之候

右申上候

明治廿六年五月三日　河原田盛美

田中先生閣下

呈上

沖縄縣産

紅蟹殼

田中先生

閣下

大渕、稿云

拝肯

昨夕双載ノ節腸ハ至テ柔カニ上品ナルモノニ御座候　デンブハホメテ貝ノ柱ニ御座候ヤ食ヘトヒ味明瞭ニカタシ

一 越中産蟹卵乾物ハ清國産蝦子ニ形状甚タ似タリ此蝦子ハカニノ卵ヲ乾シタルモノニテ之ヲ玉蘭片（竹ノ子ノカナルヲ蒸乾スルモノ）ト共ニ煮支那料理ニ用ヒ賞セラレ價百斤二百円餘ノモノナルヲハ曾テ陽氏ヨリ承リ候儀アリ

一 支那貿易品ニ鮮殻ハ重[illegible]商ノ間ニ祈望（合）ニテノホ七[illegible]ニテ求メシ申候

右申上候

明治十八年五月[illegible]　河原田盛美

田中先生閣下

呈上

沖縄縣産

紅蟹殻

田中先生閣下

大渕稽玄

廿年十月十三日

匠山氏筆稿ナリ又

タコ釣リノ餌ニ用ル　イシガニ

一モザヨリ　外ニカナル別物アリ「モザヨリ」ハサヨリノ種類ニ非ズヤカラノ称ナリ

一モダヅ　モダヅハヨウビ魚ノ一名ダニミハリト云モノナリ長モノハ八寸アリ

一ゴマダイ

一スミ　又スミヤキ　スギウヲナルベシ

一アラ　前条ニ似テ少ナルモノ其筋三筋ニテ分明ナリ

一アオガニ　眼玉長シハサミハトレテナシ

一ボウヅガニ　ゴブレカニノ少ナルモノ

一シヤコエビ　宛ニシヤコニ非ズデンボエビノ類

一ゲンゾボ　タボノ種類ニシテ粘ナルコト鰻ノ如シ長キハ三寸五分アリ

一アカトラ　トラキスナルベシ是ハアンカウノ腹ヨリ出ルモノ

此モノ陸ノ外ニ
甚ダ大ナル者アリ
深キ處ニ住ス

イシガニ　タコ釣ノ餌ニ用ルイシガミ

テトメガヒ　テトメカヒハ又タヒカイノ種類
甚ダ合ノ他ハ未ダ詳ナラズ

一アマダイノシラミ

拾弐号
静岡県士族　片山重人

サクラエビ

高野則明

此小蝦肉ハ常陸土浦ノ名産ニシテ東京其他ヘ輸出シ久シク聲價ヲ得タル者ナリ之ヲ製スルノ小蝦ハ[illegible]霞浦（湖名）ニ多ク生ス其長サ一寸半許ヨリ大ナルハ三寸半餘ニ至ル長キ鬚（ハサミ）アリテ全身ノ色ハ淡黒ナリ土浦ニテナマエビ又ヒゲエビトモ云フ是東京ノテナガエビ（手長蝦）ト同シ霞浦ニテ四季共ニ此蝦ヲ漁スレドモ四五月ノ頃最多シ製法ハ塩水ヲ大釜ニ盛入シ入レ煮テ取出シ日光ニ曝乾スルヲホシエビ又スヂエビトモ云フ之ヲ臼ニ入レ舂テ皮殻鬚脚等ヲ篩去リ篩ヒテ純粋ノ乾肉トナス者ハ即サクラエビ一名ワチエビナリ

東京大学総合図書館

皮殻ノ赤キハ 猶ニ比スレバ ナト一トノ比例ナリト雖モ 進品 佳ハ遥
ニ上等ナリ 殊ニ 塩気適宜ニシテ 其色ハ鮮紅 其味ハ良好 久ク
貯蓄スベク 且其量僅少ナルヲ以テ 遠国ヘ輸送ハ勿論 行旅船
客ノ携帯ニ適シ 生食煮食皆宜シ 是土人ノ貴重スル所
以ナリ 又此篩下ニ在ル所ノ砕粉ハ 郷島(?)之ヲ ヨボロ ニ用ユ
トスル 此蝦ノ外ニ 水戸手繰網ニ多ク生スル小蝦アリ 前種ニ比スレバ
形小ク 其大サ寸ニ充タズ 之ヲ ヌマエビ 又ハ ザヽエビ トスル 霞浦ニ産ス
塩水ニ 煮テ乾シ食ス 皮殻ニシテ 味佳ナレド 品位(優ル?) 前種ニ及バズ
国ハ 日本産物誌 山城■部ニ ワエツキエビ ト称
シ出セリ

越前塩蝦

鮮紅艶美
腹部ニ卵子ヲ
抱クモノ多シ
一個ノ量
二匁四五分
食スニ塩気少ク
軽ク佳味アリ

明治九年三月二十日 高野(?)ノ売 塩蔵品

是ハ信州ヲ(?)
カラクワエビ
トスルモノニシテ
北国ヨリ来ル
但シ蒲原郡(?)
伊勢蝦ノ名
ナレバ是ト混
スベカラズ(?)
封州ノ方言(?)
ニテ(?)...

三月二十(?)
田中(?)

越前産

リ見レバ[illegible]

[illegible]来リ[illegible]

裏ハ越[illegible]

ラツニ[illegible]ス[illegible]

平ナリ[illegible]

又佃産[illegible]

ミニハセ 中等

越後産ハ[illegible]

[illegible]

大ニシテ根白ク[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀州産[illegible]

[illegible]ナレドモ 相模産ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]ノ[illegible]

[illegible]テ大ニシテ[illegible]ノ[illegible]モノ

[illegible]テ[illegible]

[illegible]京[illegible]川[illegible]

[illegible]

ダシノヨクキクモノ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又[illegible]ノ[illegible]

下等

一昨年越前丹生郡武生（タケフ）ニテ此
越前産ニ海老ヲ閲シ、単ニエビト云モノ多キ中
リ見レバ隠ニハエビト云モノモアリニ丁サテ帳ヘ
其ヲ撰リ分ニハ
裏ハ越之留メ生リ又塩飛界ヲ致賀ヘ三地
ニツニ欲スニ三気リ仕スノミ兼リ申し
平ナリ又　三十日　河手尚書之
又佃産
ニハセ　中等
田中様

三月三日
高橋
田中

田中紙

[illegible]

越前産ヱビ 昨日切通シノ肴屋ニテ見掛ヘテ後ニ参
リ見レバ随分ノ不残賣リ切リ 焼ヘモノ二尾残リアルヲ
買ヒ来リ名ヲ立尾蒸上 此肴屋日ク 越前ノ々
業ハ越前ニテハ ハナヱビト称シ 焼乾ハ焼ヘテトノ
コツニ製スルナリ 越後ノコモチヱビハ此モノヨリ身扁
平ナリ 久ラハヱビト異ナル所アリヤ未審
又佃屋ニテ 来ハゼ 大モノ 小モノハハラ白口等 上 ホソハゼ等 中 又ホソハゼ等 下
ミゴハゼ等ノ四種アリ 皆買来テ水浸ニ供セシ

東京大学総合図書館

一博覧会ノ節ニ差出シ候尾張国ヨリ魚類繪 弐冊
並ニミコロウ翁ヘトリ候人等差出シ候 彼蚕ノ病ト浄
右ハ御返シ、ウミ、コノワタ、其外之所ニ而色々差出シ候
之ハ申上候ヘハ御返シ候何卒御返被下度候

右之件

三月一日

田中様

河原田盛美

二寸餘ノ子モアリ
スレハ稀ニ三寸ニ
達スルアリ或ハ
二寸半寸ノモアリ

亀甲海老

越中放生津の海産ニ而秋の始めに採りて生乾(キボシ)しなる
なるとて錦木金三郎氏より贈られしを見るに二寸餘の
狭扁なる蝦にて其名の如く鼈甲色なり如何にも身狭く
皮うすくて見へる位なり 蝦類ハ乾きし時ハ弯曲するを常とする
なれども此ハ弯曲せる少くして強直或ハ背の方ニ曲るもあり
あつて常ニ異なり 全体淡茶色ニて頭又ハ腹の中ニ膨福の
所あり其腹中の色濃きハ皆鰍なり之を精細に見るに飴色
の卵粒あり頭の内にも卵粒あり 或ハ身ノ周囲ハ紅を呈
せるもありて美ならず 鬚ハ大底損じて見へし 味ハ

郵便往復はがき
返信用
此表面は名宛所姓名を限り認むへし

東京本郷区金助町
〓番地
田中芳男殿

但漬とハ名味ヲ失フ

一 湊魚類ノ佃ニ保リて美味ヲ保ツ〓〓〓〓〓

甘美ナラン塩気アらく如何ニも美味ナル食品 菜蔬ト共ニ煮ル
みそ以テ美味ヲ添ユヘし 去ル十二年水産博覧会
ニ於テモ出品アリて該品ハ一個ヘらハしテ宜ヘタリ
因ニ伊勢国田町ト云く此草ニ刻ミテ形ヲ大ナレトモ
此ノ前ニテ美味ナルハ較似タリ 併ニ設計ハ切ル割ミテ
大キサモ色モ亦同カラス只ノナリト宣フ人アリ
明治廿三年一月二十日　田中芳男記
附言 鈴木氏ハ富山県ニテ開設ノ水産試験場ニ勤務トシテ名モ之レ是ヲ
帰京セル人ニテ彼地ニテ試製セル結果ノ物品ヲ持帰リ此レヲ試食ヲナサシメタリ
又其事ハ既ニ官報一九〇〇号 廿三年一百六十三ニ載セタリ
但シ此文ニテハ之レ不詳 〓〓〓〓〓〓〓〓

蝦墨ニテ摺之

此度之小名味ヲ失フ

甘美すくなく塩気ろく 尤何よりも美味なる覚ゆ 茶蒸と共に喜ぶ
ろふば以て美味を添ふべし 去ル十六年水産博覧会
滋味も多分あり 広島県下両国へ流し宜へたり
因曰 伊勢 尾田 [illegible] 共ニ別ニシテ形又大ナレトモ
[illegible]似タリ 係ニ採[illegible] 別ニシテ
ノナリト覚エタリ
田中芳男記

[illegible]ハ[illegible]ニ[illegible]
[illegible]七八寸[illegible]
[illegible]十七[illegible]
大陽[illegible]
以内ニ[illegible]七八寸[illegible] 海中[illegible]里以上[illegible]里
チ一名コクワ[illegible] 鳥貝[illegible] 漢[illegible]
鰕モ[illegible](鉄漿)[illegible]
[illegible]カ[illegible]湯[illegible]カラス[illegible]
[illegible]
[illegible]三百[illegible]
[illegible]

鹿児島県[illegible]ニ[illegible]試食ヲナシタリ
[illegible]ノ物ヲ持帰リ[illegible]
年大書ニ載スタリ
但シ此文ニテハ[illegible]写シテ[illegible]

乾海老 即車海老ノ乾物

鹿児島ノ産物トテ近次銀座ノ薩摩屋ニテ賣ル車海老ノ乾物ハ該地ニテ専ラ烹汁■ノ出シニ用ユルモノニテ出京ノ人ハ必ス携ヘ来リ用ユルトノ事ニ聞ヘシ 今回田代安定氏出京シ一連ヲ贈レリ因テ其産地ト所用トヲ聞クニ出水郡伊佐郡ノ海産ニテ阿久根出水ノ名産ナリ此地ハ鹿児島ヲ去ル十五里乃至二十里アリ鹿児島ノ地ニハナク全ク同所ヨリ来ル 生ニテハ用ヒズ多ク乾物トナス由一連ハ十個宛■藁ニテ列子編ミタルヲ二ツニ折ル 價五拾銭内外上等ハ七十銭位ニテ産額ハ頗ル多キモノナルヨシ 捕獲ハ秋末ヨリ冬ニ至ルト云食法ハ東京ニテ乾菌ヲ用ユル如クニテ出シニハ非ス味ヲ着ケ又

浸テ墨ニテ摺スノ動スノ多シ

鬚ナシ

身四ツ 賤黒色ナリ 川防ノ衛ニ支ヘテナリ

浸シ多ルノハ墨汁ヲ少ク摺スノ

五節

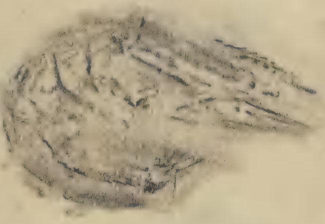
大ヲ食スルナリ皮ノ儘切リ（細ニ）素麪ト共ニ煮又煮浮ニ入ル乾菌
ト共ニ煮ル然レ圧鰹節ノ如ク（煮出シニ）用ユルニハアラズ皆貯ヘテ来客ノ用ニ
供ス総菜豚ニハ用ヒズ又割リテ醤油ニ浸シ食スルヿアリ
上等ノ割烹ニハ必ス皮ヲ去リ煮ル又（之ヲ割リ）豆腐ト共ニ煮ルモ此ハ美味
ナリトス
今理物ヲ得ルニハ皮ヲ去リ細剉ニシテ豆腐ト共ニ煮テ食
スルニ至テ美味ヲ出スナリ

十七年二月二十日

田中芳男記

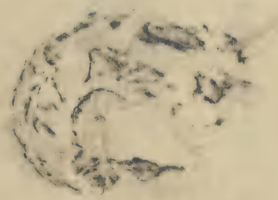
紙微校

伊勢乾鰕



皮アルモ味宜シ

志摩 イセエビ乾肉



是ハ堅硬ニシテ美ナラズ

右二品 伊勢朝明郡 丹波脩治ヨリ恵ム所

十六年一月十六 高橋信[illegible]

長崎産 干海老

外皮ノ半ハ去リタルモノ多シ故ニ或ハ脚尾ノ残ルモノ多シ 肉ハ淡紅色ナレドモ
外皮ハ淡黄灰色ナリ 食スルニハ外皮邪魔ニナラス 些少ノ塩気アリ
味宜シ 生食煮食
共ニ佳ナリ

長崎ノ産干鮑ノ[illegible]
地ノ支人ヨリ贈物ニナリ其
[illegible]ノナカラノ[illegible]ニ試ミ候
[illegible]候地ヨリト試セシニ
酒ニ浸スモヨシ汁ニ[illegible]
モヨシトノ事ニ御座候

田中様

[illegible]
長崎乾海参ノ鑑定書

此品ハ[illegible]アラカンベシ[illegible]精[illegible]
[illegible]製[illegible]十分[illegible]
[illegible]モノナラン[illegible]モノ
[illegible]此品ハ[illegible]海[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十六年六月二十日

[illegible] 徳

右真崎氏ノ説ニ拠リ蝦䗴ナルコトヲ知ル今水産博覧会長崎県
出品数種アリ其内ニハ良ノキナアリ殊ニテレモ前ト相違ナシ
十六年三月十六
田中芳男記

備前国岡山県十七号
当国ニ於テ産出ノ鰯仲肥料アズ魚ニシテ鰭アリ四月ヨリ七月マテ
網ニテ此ノ如ク採ル右ハ管下轉松郡沿海村ニ於テ漁
獲スル小蝦ノ類ニシテ方言アミ則小蝦ヲ乾物トナシタルモノト大
同小異ニシテアズハ色澤赤クシテ脂肪質ニ富ムアズハ脂肪
寡キノ違ヒニテ形ハ双方共異ナルコトナシ併肥料ニ至リテハアミ
ノ不及事論スルニ足ラザルナリ其アズ漁獲ノ期ハ四五月ナ
ルヲ以テ明年ヲ期シ當都ニテ一掬ヲモ差上ヘシ富朗ニ
至リ漁獲ノ上所以閲図ヲ送リ不取敢別紙漁
獲季節漁法書ヲ添式此段御答申上候也
明治十六年三月二十
長崎県勧業課
岡山県勧業課御中
追テアミハ食スルニハ為ス善シ

アズ魚ノ答

漁獲季節及漁法

アズ漁ハ二月ヨリ四月迄ヲ漁獲ノ季トス年ニ漁獲高一定セズ年ニ依リ大ニ増減アリ此魚ハ季節ニ至レバ海面ニ群集浮游シ漁獲最モ容易ナリ漁具ハ細目ノ網ヲ以テ漁収ス年ニ依リ群集浮游多キトキハタブ、サデノ漁具名ノ類ヲ以テ掬ヒ取ルモノナリ

形状及性質

アズハ蝦ノ一種ニシテ貌チアミニ似タリ本年ハ未タアズノ漁獲ナキヲ以テアミヲ以テ干物トシ御参考ニ供ス アズハ赤色ニシテ油質ヲ含ムトモアミハ色白ク油質ヲ含マザルヲ以テ肥料ノ効験ニ乏シ

培養効能及用法

剤

アズヲ肥料ニ供スルハ生ニテ用フルト干乾シテ用フルト二様ノ別アリ生ニテ用フル時ハ生ノ侭桶又ハ糞壷等ニ入レ腐敗セシメ水多量ヲ和シテ多クハ田肥ニ用ユ干物ヲ水田ニ用フル時ハ朗晴ノ天気ヲ見定メ畦畔ヲ堅メ水口ヲ止メ置キ充分アズ剤ヲ浸潤腐爛セシムルヲ宜シトス用量ハ水田壱反歩ニ干アズ剤凡多分ヲ適量トス又干アズヲ畑ニ用フル時ハ取ヲ切リ冬ノ中ニ蒔キ込ミ其上ヲ土ニテ覆ヒ置クヲ宜シトス該餌ヲ肥料トシテ最モ効験アルモノハ綿及ヒ麦ニ適セリト思考ス

長崎縣勧業課

右ハ徳島縣勧業報告第三号ニ長崎縣下アズ魚肥効用ノ試験ニアリ因テ報告課ヨリ長崎縣ヘ照會スル答ナリ

定價壹圓四十錢

其羽ニテアミ𩸽ノ漁事ハ
寛保ニ始ル
漁法説曰 出羽ニテ
アミ𩸽ハ土俗鰊ノ雛𩸽ト云鰊
ニ随従セラレテ洋中ヨリ海濱ニ
ト云フ其漁ガ如キ海上ニ群集
スルヲ網ヲ数舟ニ分人数乗シ
其後上ヨリ見ヨリ掬ヒ取リ手ヨリ呼
畢ヒ揚ケテニシテ耕地ノ肥
料ニ供ス
根ニ数[illegible]向ニ進

田中 公

右ハ河井及彦[illegible]

ミロクガニハ肥前高来郡ノ海ニ聚合シ往来ヨリ海面ニ浮ミ甚群聚[illegible]
網ヲ以テ掬ヒ取リ肥料ニ供ス 此蟹ハ水産博覧会ニ[illegible]松葉蟹ノ如ク[illegible]
細微ノモノナリ 真崎氏
三州ノ子ト云フ浮遊スル者ニ同シ
ミロクガニハミロクガイヨリ生ズ故ニミロクガニト云フ又[illegible]ヨリ文[illegible]
其ノ外中ニ出[illegible]一定ナラ 初夏ノ候ヨリ出事ナシ 真崎氏
徳島縣[illegible]アミヲ用ヒ又[illegible]ハ長崎縣ニ[illegible]等ノ肥料
肥料ニ供ス
徳島縣[illegible]
内海ニ聚集シ
料ニ供スト云フ 真崎氏
セリ星ト云フ

東京大学総合図書館

十七年二月十三
築山(?)師太所
長崎県ニ(?)
寸清ノ指テ
肥料ト二見テ
田アル所ニ(?)
十七
男

アヅ、ミロクガニ、ミヅサイハシ等ノ説

アヅハ肥前東松浦郡呼子ノ浦ニ産ス干シテ之ヲ補ヘテ曝乾シ肥料ニ供ス
水田畑等ニ施シテ効アリ 徳島県ニテハ之ヲ用テ藍ノ如キニ最効験アリト 徳島県牧言達見ニ
アヅハ東幸ノ曲蝦ニ似テ胴ノ経絡セシモノナリ 唐津辺呼子ノ湾内ニ群聚シ
甚シキ時ハ海面ニ堆ヲ為スト云フ之ヲ鎌網ヲ以テ抄ヒ乾シ俵ニ作リ肥料ニ供スト云フ 真崎氏説
アヅトハ東マルノ謂ナリ 群聚スル時ハ海面為メニ黄色シ赤色ヲ呈スト云フ
十六年五月 真崎氏并水産博覧会審査長(?)原甚ノ説

ミロクガニハ肥前高来郡ノ海ニ聚合ス初夏ヨリ海面ニ浮ミ甚群聚シ鎌網ヲ以テ抄ヒ乾シ肥料ニ供ス 此蟹ハ水産博覧会審査松平(?)蟹ノ如ク極メテ細微ナモノナリ 真崎氏説
三州ノ千トモ(?)淡種ナルベシ(?)
ミロクガニハミロクガイヨリ生ズル故ニミロリガニトイフ又晩春ヨリ文給(?)等ノ外中ニ出醸一定シテヨリ初夏ノ候迄ハ此事ナシ 真崎氏説
徳島県ニテアヅヲ用ヒ又ルナハ長崎県ニ依頼シ其県ヨリ之ヲ産セ(?)等ノ肥料

共同ニテアミ漁業ノ漁事ハ
定候ニ阻リ
漁法説明 共同ニテ
アミ漁ハ土俗鰯ノ館(?)漁ニテ鰯
(?)年中又ハ秋ニ(?)

共同ニテアミ漁

ニ供ヘリ苗蝦ヲ臙脂稱スルハ其肥料トシテ効アリテナリ　佳[illegible]十三年正月

抑又ニ苗蝦ヲ脂肪ノ多キ方ナルヲ青油ヲ多クシテ肥料トシテ効大ナリ（云々）

篠山郷大柿田　ミロクガニハ云ニ前述ト同シ阿波ニテ云フニハ鑄島解テ試験ス

ウヒテヤ

サエビ（小エビノ事）大サ五六分位ノ物ニシテ東京ノ苗蝦ノ如シ　島原辺

ミヤサエビ　トラフアワノナナヘヘ　調中

ミズナイハシ　ハ梅雨ノ頃島原地方ニテ捕ル長三四寸許リ東京ノ鰕ナ
ラシ云フニ捕獲スルモノハ其侭田圃ノ肥料ニ供ス　其ノ他甘藷ニ施シテ
最効アリ其他方乾燥シテ施サバ云々

肥料作合ノ比較

雛揆[illegible]　三〆目　代金七十五銭　ナタ目付　金三十四銭

ミロクガニ　三石　〃

ミズナイハシ　二斗　同

右ハ長崎県[illegible]勧業試験中ナリ

（字鏡）鰕　アミ
（本草）海糠　アミ

東国ノ名ニハ従ヘ[illegible]

物品識名　苗蝦（アミ）閩書　糟蝦（アミシホカラ）八閩通志

小形コマモ　アミ等ノ名アレトモ其実ハ不知之

サシ　右上方ノ名セ

アミ

小ナキ蝦類ノアミハ上方ノ名ト東国ノ名ト異ナルハ知ラレタル事
ニ明辨シテアランサスニテ重要水産物ヲ論スルニ際シ義又ハメノ
柳共又ハ形ハ小ナル度数多キノ一ノ重要品ト称スヘシ　江東
ニテ新鮮ナルヲ得テ之ヲ上方ヨリ来ル乾物ニ比セントスルニ乾物
ハ損シテアラスヤ塩辛ヲ以メテ研究スルニ塩辛ハ損品ナレバ漸
多数中ニ在テ一二ヲ知之ヲ比スルヲ得タリ時ニ伊東信夫
来リテ余ガ研究ヲ助ケテ曰　上方ニテハ二種アリ大阪以東ニハ此
東国ノ一種アレトモ而シテ備前ニテハアミトアナアミ
トニ分ツ即東国ノ品ハアナアミニテ其色アシク味劣リ賤民ノ

上方ニテ ヨロタ
トカラフヘノ多スモトモ
ツ也ヒイドロウヲ
ナシ

含ム故ニ多獲シタルハ肥料トス又アミヲ塩辛トス中揚砕スルヒ
ヨリ形ノ全カラザルハむノ一ナリ又アミハ生鮮ハ半透明ニテヘニ
アカミノめクリ背毛ニ生ス又払ヒ取テ製スルハ網ヲ捕ルヨリハ交
リスノ又ノ多テ且歩ナリ乾スニ箕上ヲ單ヒ乾スヘキナリ
今上方ヨリ来ルアミヲ見ルニ黄白色表モ尻東国アミヲ乾
セルハ唐黒色トナリ甚タ醜シ上方ノ塩辛ハ白クシテ尤紅色
ノ所アリ東国ノ魚ハ汚黒色ナリ又上方ノ形ハ大ニシテ東国ノ
品ハ形小クシテ游泳ス之」ナイト云略図解 Mysis vulgaris
まだ入ドスタコでド図 Mysis longicornis (Opossum shrimp)
ハ甚近キモノ 丙モ上方ノ品ハ損夫多キニ一般定メ難キ之代 ナイトノ方

二十二年五月六日 六ニテ 写ス之
田中芳男

百二十五葉オ

（日本魚譜）大蝦 細目 〔釈名〕糠蝦 同上 苗蝦 清州府志
鰝蝦 同上 河身（アミ） 和名 細小之物也時珍曰嶺南有天
蝦其虫大如蟻秋社後群墮水中化為蝦 細目 浮游
府志曰苗蝦海物異名記謂之鰝蝦細如針芒海人
作鱐以為醤淡紅色 和漢一也 〔気味〕甘温無毒 〔主治〕凿蝦
桐同矣
備前州所製之醤蝦為名品也
武州産者小而不及備前産也
（本朝食鑑 巻九）鯡 訓阿美 或曰阿美伏古 〔釈名〕細魚 訓宇留利古
海糠魚 俱湿 〔集解〕状極細小類鰕冥氷鰕類鮭有糠

百九十五葉オ

卅六年本

鰕苗鰕蠶鰕之名漁家常謂竟未見鯠長成鰕者但以形之相似而名乎別有鰕子如鯠者能成群漁人麺之布網采之春末夏初秋初時最多炎暑嚴寒時希見鯠有二種其色淺黃帶黒者江東多采其色澤白首尾兩端純紅者海西多采備之三州肥之二州最多作鮝作醋送之江東或貢献于上厨其味更好江東案黒者塩煮或醬醋送之極為下品【気味】甘温有毒 動血生瘡家最忌【主治】婦人産門破腫経年不愈研鯠罨而傅之則痊。

（本草啓蒙）蝦ノ條中 并蝦 糠蝦ハ蝦ノ最小ナル者ヲ云琵琶湖ノ「ヌカエビ」ハ秋頭ヨリ細小ニ二三分ニ過ス味美ナリ大蝦ノ卵ニ非ス別ニ一種ナリ備前ノ「アミ」一名「アミザコ」「アメエビ」雲州大和本草ニ一寸許ノ小蝦ナリ味佳ニテ大ナラズ備前筑後ノ泥海ニ多シ海邊ノ潮入溝河ニアリ味亞ケ一種小毒アリ鹽鯠トシ又乾カシテ遠方ニ送ルト云安鞘金銀ニモニトニヘリ廣東新語ニ銀蝦味如繡鐵銀蝦稍大若出新安銅鼓角海名銅鼓蝦以鹽藏之味亦美其蝦醬則以香山所造者為美曰香山蝦其出新寧大襟海上下二川者亦香而細勁

尾共鬚皆紅白身黒眼ト云フ「アミ」ハ閩書ノ苗蝦八閩通志ノ塗苗ヲ當蝦ナリ「アミ」「おかう」ハ廣東新語ノ蝦醤ナリ備前ニ一種「アミ」アリ至テ小クミ分一寸ニ甞アリ「アナミ」ト云フ又「アナアミ」ト云フ一名「アメゴリ」加州「ツチアミ」長州穴居ミフ色白黒味美ナリト又昌泉ニ甚アリ詹義ス

（魚鑑）（玉ノ篠ノ中）「アミエビ」「ヌカエビ」トモ云フ米蝦、糠蝦ナリ甚長大サフ以テ多ワク網目ヨリ出ツ當蝦トモ云フ塩辛ニ作ハ故ナリ閩書ニ出ツ

（全國水産物紀敍表）魚殹 五九、八三五圓

開者

日向細嶋山辺ニテ釣魚ノ餌ニ用ユル一種ノ蝦ヲ土俗「シャクシ」ト名ク捕テ之ヲ暗處ニ置キ一日一度海水ヲ灌キ又三四日ヲ経セス該地方ニテ生ナカラ永ク蓄ヘ得ベキ餌ハ之ニ勝レルモノナシ且四時捕ヘ得ヘキ（春期尤多シ）ヲ以テ餌ハ魚ニ之ヲ用ユト云フ（海苔ニ住ム魚即鯛ノ類ヲ釣ルニハ殊ニ此餌ヲ良トスト云フ）其之ヲ捕フルハ海辺ノ

[illegible]

生

節

入

砂ヲ堀リ其ノ栖息セル筋ヲ見當ル杯ノ了アリテ慣レサル者ハ容易ニ捕ヘ得難シト雖モ土地ノ漁夫ハ容易ニ多数ヲ捕フ其ハ味ハ可ナリ美ナリト雖モ餌ニ用ユルノ必要アルガ為メ之ヲ食用ニ供セズ

[illegible]御届ニテ
鍛魚へし鯛ニ有之ん
一 深し蝦の類鋳
本大阪府郎氏ヨリ寄贈し
候ニ付 御通達有之候
同農学ニ而相成
[illegible]同所へ 御[illegible]
方ニ於 深沢[illegible]
当分ノ所有之
ニ而 相成候

但アルコール漬蝦入

入

節

テ心要	捕ヘ其	題シ上蓋	當ル拡ノ丁

[illegible]

木佐貫重節

田中芳男様

[illegible]

木佐貫重節

東京本郷金助町

田中芳男殿

小箱壱個添

但アルコール漬蝦入

レヤク入

東京大学総合図書館

柳虫ノ話

日向細島ニテ釣魚餌ニ用ヒル一種ノ蝦アリ
二三ケ月経テ死ナス又ヘ便利ナリ其大サ一寸位
東京ノテンギクモヒニ似タレド死ナヌカ重宝ナリ
二十二年二月六日 [illegible]

東京本郷金助町
田中芳男蔵

島根縣 [illegible]

（文政六[illegible]）

[illegible] 任せ

四年[illegible]

[illegible] 昨十六日 [illegible]

堤ヘ入り [illegible]

テンホウエヒヱテ（此ニヽホウエピニ [illegible] モノト）

[illegible] 此 [illegible]

又 [illegible] 海

雲州國ノ海 [illegible]

[illegible]

[illegible]	五十本
[illegible]村	二百本
楢 [illegible]	千本
[illegible]	一万本
右 [illegible] 百二十五 [illegible] 三 [illegible]	大谷 [illegible]
会津郡山 [illegible] 圀相楽郡 [illegible] 村	
[illegible]	三百本
[illegible]	三百 [illegible]
北山 [illegible]	
[illegible]	四十五百本
會 [illegible]	五百本
[illegible]	
東 [illegible] 山 [illegible] 圀 [illegible]	[illegible] 大 [illegible]

島根[illegible]

（文法ハ[illegible]）

拙著[illegible]

来ル[illegible]任セ

田中先生

拙[illegible] 昂ガ[illegible]力アレ[illegible]

云々世図ノ大サ両脚ノ幅[illegible]

凡寺及寺又両[illegible]

一年身ハ[illegible]也ニ入甲脚[illegible]

刺アリ[illegible]

世図ヲ[illegible]重[illegible]

権[illegible]難[illegible]

先ンツ[illegible]収メ[illegible]

是又[illegible]備[illegible]

写[illegible]一々説アリ右[illegible]

取[illegible]其上[illegible]

[illegible]先生[illegible]四[illegible]

[illegible]拝

四月十八日　田中房[illegible]

田中先生

島根縣
吉
ア三（方てアン エビ）
[illegible]
[illegible]一旦一升
まく任せ[illegible]
松[illegible]
四年[illegible]

Tetsudan
三段書

尚[illegible]帳[illegible]人
[illegible]上中上
[illegible]

備前[illegible]
鰺[illegible]
産

鰕鰛　一名　沖[illegible]鰕
三河國碧海郡大濱村
[illegible]産

支那流海参割烹
此風味甚よし
九月廿三日　[illegible]
田中様

海参
但馬[illegible]根[illegible]産
撰り

乾河豚
鳥取縣産

安房國[illegible]郡
[illegible]産

安房國[illegible]郡
[illegible]産

東京大学総合図書館

鰈 備前國兒島郡 [illegible]産

鰕鹽 一名 沖漬鰕

三河國渥美郡大石村 [illegible]産

右ハ是ヲ損大根ヲ多分ニ混合シテ
此鰕ハ酢ノ物ニ物ヲ得又ハ湯ニ投シテ
即席ノ吸物トナリ或ハ味噌ヲ調和シ
煮テ喫飯ニ供スルモ尤モ絶妙

田中縣 [illegible]

海參 根室産

乾河豚 鳥取縣産

宮津郡牡蠣浜町 長濱産 方言 ヰナコ

宮津郡牡蠣浜町 塚原産

宮津郡 [illegible] 産

[illegible]

ヲ手ニ載スト雖モ十ニ一ヲ

ヤドカリ　寄居虫

蟹類ノ動物ニシテ介殻内ニ寄居ス故ニヤドカリト云フナリ東京湾中岩石アル海岸ニハ産セザルナク皆小キ螺類ノ殻内ニ据ム之ヲ小児ノ玩弄トス俗ニヲバケトモ云フ而テ蟹ノ化(ヲバケ)ノ畧ナラン此他各地ノ方言アリ此者体ノ成長スルニ従ヒ大ナル殻内ニ入ル其形体ハ殻ノ形ニ従ヒ成長スレバ細長キ螺ニ入ルハ細ク圓キ螺ニ入ルハ太シ而シテ近海ニハ僅リ大ナルヲ見ズ先年小笠原島ヨリ送リ来ル所又鹿児島県下大島等ノ産ハ大ナルヲ見タリ

明治廿二年七月十日神田区裏猿楽町ノ[illegible]畑ニテ捕ヘタルモノハ何地ヨリ

来ルヱノナンヤ螺殻ハツノヂレサヾエニシテ径二寸許アリ寄居虫
ハ紫褐色ニシテ螯脚共ニ堅大其体乾燥シテ更ニ周ズル状
ナレ其餘ノ箇々ニ水ニ入ルヲ好マズ泥ニ入ルヲ好ムト云フ鳥籠
ニ入レ上部ヲ攀登シ静止シテ動カズ動作甚タ壮健
ナリ（保田東潜摭集ノ手ス不）

七月十三日讀賣新聞ニ載ル說アリ参考ノ為メ次ニ抄録ス

○本所入江町のすしや井上大吉方にて四五日
跡堅炭を一俵買ひ一昨日口を切て炭を出さ
うとすると中に大きな法螺貝が一つあったを
子供の翫物にせんと床の間に載せて置い
く處夜中に其法螺貝が這ひ出して床柱の中
程まで上つたとも知らず大吉は不圖目を覚
ますと床の間に置いた法螺貝が見へぬを怪しみ
四辺を見廻すとコハ如何に法螺貝は何時の間
にか床柱へ這ひ上り首を出して鬼蜻蛉の如き頭
より三寸程の角を二本突き出し伊勢海老の様
な足を六本出して尚上の方へ這ひ上る体なれ
バ大きに驚き偖て生きまゝ炭俵へ入れて置り
しふらんと家内の者を呼ひ覚して其法螺貝
を取り下し如何にも如何にも奇妙な形にて

十二年十月廿六日 山中翁 ... 柳
...

大変子重いのを権衡に掛て見ると百五十目
ほど有りて偽かど言ふ者もありし
いかさま奇体な法螺なども話しは決して
法螺では有りません
右ノ物ハ特名給仕 柳氏ヲ伴ヒテ之ハ 小禮スカヒ ノ所ニアリ 予ヨリ助ケタリ
又是ヲ物トスル 変ト者ノ所持スル ハ 右店主ニ云フトイフ
ウートド図アリ Cenolita Pizgenes
右ノ名ハ書籍ヲ拾ヒ得タルモノ 書ニ図アリ 同ジレバ
一 柳氏ニテ捨ルモノ 捨物ニアリ 又 水天宮ヲ出テ 其時ノ征ナリ
又 此後ノ半ニテ 捕ヘタルノ 小網ヲ 取リ集メ 給仕ス 十月 ...

タイノムシ

水族写真 鯛ノ条中ニ 鯛之福玉トイフ 随観写真ヲ引テ曰
長州ノ俗之ヲ鯛之咽子ト云ヒ甚タ賞味スルヿ 鯛ノ也 鯛奥ノ
口中ニアリ 福玉ト呼フハ 含玉(フクミダマ)ノ略語乎トアリ 物品識名ニ
イソムシ 一名タイノハラミ トイフアリ 同物ナラン
此虫ハ蟹蝦類中磯蚓科ニ属スルモノニテ形ワラジムシニ稍似テ異
ナリ 而シテ今是ヲ予ハ鯛ノ鰓間ニ多キヲ以テ タイノムシノ名ア
リ 又 サヨリ ヒウヲ ハウボウ(ヒウメ) 飛魚ヘ是レハ 此他ノ魚ニ定
ナアンベシ 余ノ知ル所ハ サヨリ サヨリヲ最多シト思フノミ 先年ヒラアヂ
ヨリ出ルハ二ツアリテ 一ハ大ナ 招頭許ニメ 卵ヲ多ク抱ク 一ハ小ニシテ

一 此ノ如キ物ハ鯛ノ口中ニ寄生スル虫ナリ 大
ノモノハ Cymothoa（鯛虱）ニテ 鰓甚
強壮能ク鯛ノ口ニ吸着シ 肉中ニ爪ヲ
穿チテ 強ケレバ 取ルニ大ニ苦
労ス 雌ハ大ナリ 小ナルハ之モ雄虫ナルベシ
寄生虫 皆海魚ニ在テ [illegible]
間ニ寄生セザルモ [illegible]
小ナルハ 乾燥ニシテ 稍寄生ニ適シタルニ 此
[illegible]一脚類ノ変ジテ 寄生虫ナルト
其他ノ形状ニ就テ寄生ニ足レバ Isopoda、
（鯛虱類）ニ属シ 此モ変リ [illegible]
全身 [illegible] ノ虫ニ寄生ス [illegible] ニ接
[illegible]ノ性ヲ強キ [illegible]

鼠婦（わらじむし）ホドナルヘシ 此ニ示ハ大西段ニテ 博物館ニアル（ミ） 農務局水産課
ニ ハウバウノ鰓ヨリ出ルモノアリ 大サ指頭程ニシテ 明ニ絶テ多シ
此類ハ ダイナグラム 図ニ出ル Ourozeuktes owenii 十八又ノ形状キ
大サ又甚タ似タリ 又別ヨリ出ルモノハ身細ク小ニ眼ハ肥シテ長
前者ノ如キ大サナシ 甚タ形状ニ於テ差アリ 或ハ雄ナルカ 西洋書ニハ
図例 Bopyrus、Cymothoa、等ノ図多シ 同科ノモノナシ
此形状猶合セズ

十五年五月[illegible]

田中芳男記

大サ流レ魚ホド蕃椒ニ寓タル味アリ
ノ情ル中ニノミ云々ト云フハ吾輩
ニモ見タル節アレド魚ハ得タルハ情ル中ニノミ
アルヲ以テ過分ノ情ル二於テハ之ニ就テ
ヒトエニモノトヒトモイヘリ、

右ノ十五　　　松原新之助

明治廿五年

此草案今回通覧済也

此鰈ト云フ者ハ河豚ニテ限ラス
他色ニテモ皆外皮ニ付リナリ又
此鯛ノ口中ノ虫ナド水族学者
ニ云フ鯛ノ福玉ノ事カ然ルトキハ
鰕蝦則チ属ス者ハ似タル比大ニ
故属ノ異ヘナリ　要ナ此
濱ニホウ　ハ　ハマニボウ　ト読ムカ
無名ハ皆仮字ナラ
主ナル者モ多ク

大福五ノ下ハ多クムヒ　多イノハ[illegible]

等ノ名モ又人之ヲ合スナリ

[illegible]

先年来[illegible]

諸君モ一ツコトセシ其節

[illegible]

上京ノ節ハ雲[illegible]

[illegible]

此度御出品件名
御差出之
拾廿六日 松原新助
田中先生
ノ

金沢町
田中芳男様
水科七三
松原新助
七七通并二七七紙 添ノ

田浦村及ヒ上総ノ
ノ如シ常ニ仰キ十條
リ全身淡緑色ヲ透
一條ノ鬚須アリ又口辺ニ
ノ蝦ノ口辺ノ指ニ似タリ
リ如シ又ヲナシテ浮紅

又當年下総葛西辺ノ萩田ニ生ス此虫三十年前ニモ生
スルコトアリ豊熟ノ兆ナル故ニ豊年亀ト名ヅクト云フ
右ハ余ガ嘗テ写生セシ図ニ詳ニ述ミテ且今ハ博物館
虫譜 伊藤散敷ノ冊中ニ貼附セリ
伊藤翁曰 尾張ニテ ヤブレタキニハギヨ トイフ 又 タキニギヨ、キリミヽズ

農商務省

東京大学総合図書館

[illegible]

尾ハジヤノ如シトハ意味解シ難シ 或ハ誤字ナルカ

豊年魚

文久二戌年五月 江戸近在千住宿ノ辺 田浦村及ヒ上総ノ
海邊ノ村ニテ得ル 長サ一寸許 形蝦蛄ノ如ク 常ニ仰キ十條
ノ脚ニテ游ク 或ハ蝦ノ如ク飛躍スル事アリ 全身淡緑色透
明ナリ 眼形ハ蜻蜓ノ如ク挺出シ色黒シ 二條ノ鬚アリ 又口辺ニ
二個ノ指アル手状ノモノ二本アリテ屈曲ス 形蝦ノ口辺ノ指ニ似タリ
全身ソ直シテ 茎豆色ノ髄アリ 尾ハジヤノ如ク 又ヲナシテ浮紅
色ナリ

又當年下総葛西辺ノ壽田ニ生ス 此虫 六十年前ニモ生
スル事アリ 豊熟ノ兆ナル故ニ 豊年魚ト名ヅクト云フ

右ハ余カ需ノ写生シタル図ニ従ニテ 目今ハ博物館

按講 伊藤數ノ冊中ニ貼附セリ

伊藤翁曰 尾張ニテ ヤブレタキニバギヨ トイフ 又 タキニバギヨ、キリミミズ

蒜ノ名アリ 丹洲翁千虫譜ニハラムシ上キツトナヘシ
(ニ墨図ヲ尾張ニ)
ホルレンキーム氏図アリ 羅甸名 Branchipus Chirocephalus, 上キツ
又 Chirocephalus Diaphanus, Prev. ノ名アリ ダイヤフグラム図
ハ州カニノ名ヲ序ノ英名 [illegible] Fairy Shrimp トアリ
小森頼信曰 文久年間ニ生ニ見シ時ハ江戸ヘ売ニ来リ自ラ求メシト
アリ 余モ亦確ト記憶セザレバ下條ヨリ持来ヲ求メテ是ヲ人ノ品ヲ
是ハキニ覚ヘタリ
明治十六年七月備中倉敷ノ辺ニ生シタリトテ図ヲ添ヘ質問
ニ来ルトテ織田定之ヨリ寄セタルハ即此豊年魚ナリ
十六年八月十七日 於博物局天産課ニ記ス 田中芳男記

ハチムシ 又 ノミムシ 又 トビムシ 端脚蝦類 Amphipoda ノ内
鬚二本 胸脚二對 肉前二本 中三本中 後二本長大飛躍ノ用ヲナス
浮泥ノ地ニ棲ミ能ク飛躍ス 又ノミノ
仏蘭西訓蒙書ニ図アリ Talitre terrestre
又仏蘭西字書ニハ Talitre ニ於テ
一 Crevette des ruisseaux puce d'eau
二 Talitre sauteuse
羅 Sand hopper, Sand flea
英華 Sand hopper, Sea-flea, Gammarus
水曲甲、蝦虱
サムエル Talitrus locusta, Orchestia littorea,

ウード氏ノ英帖 Talitrus saltator. キュビエー氏図アリ

チャーレス ナイト 百科全書ニ出ス

按 海岸ニ生ス ハマムシ 本草 蝦蟲ニ近シ

大ナル者ノ形

カメノクビ

鹿児島縣下 城下ノ海 前ノ濱ニアリシトテ云々

誠地ヨリ持来シトテ 関澤明清君示サレシヲ見ヘニ

カメノクビト称スル 蟹蝦類ニ属スル寄生甲殻物ナリ

海松ノ枝ニ数個寄生スレド 今ハ落テ四個トナル 一個ノ

大サ二寸六七分 幅九分 厚サ三分許 開キタル殻間ヨリ

Scalpellum rostratum

ミャウガガヒト図ル

相模産 [illegible]

龜蝦様ノ脚ヲ多ク具ヘ 此甲殻ノ形ハ一様ナレド又角立チ

タルモアリ 此品ハ カメノテ エボシガイ 等ノ類ナルヲ以テ

本形ハ相似タレモ 此ヘハ他品ノ如ク東京近海ニテハ 稀ナル

[illegible] 其肌白クシテ甲殻白色ニ

シテ エボシガイノ如ク聚リシカ 此ヘハ汚穢ニテアリシ

又頭トモ云フベキ 鱗甲ノ部分ニ生活ノ時ハ肉アリ肥豊

ナルベキモ 今ハ 乾枯シテ萎縮ス 但シ太サ五分許ナランシ

鱗片ハ カメノテノ如ク最大ナラク 而シテ枝ニ着スルノ部ハ

枝ヲ曲ゲ抱キタリ

明治十九年二月十七日　田中芳男

[illegible]

又用井方ハ食用肥料ノ外 飼用ガアルモノニ非

此カメノテノ如キ動物ハ ヤハリ カメノテ

ニテヨロシク 此ニハ別ニ名稱 [illegible]

おもしろや [illegible]

杉本 [illegible]

田中芳男 [illegible]

カメノクビ也 [illegible] 書答

カハムシ（砂蚕）之説

水野運氏相州酒匂川鮎漁従ヲ招キ

酒匂川ニ於テ鮎児ニ廻ルヲ釣ルニ用之虫ニシテ其漁ハ寒明ケヨリ五月ニ至ルノ間之ヲ用ウルナリ此虫ハ同水路或ハ田畔ノ小溝等ニ生スルモノニテ細沙ヲ纏ヒ小石瓦片等ノ下ヘ潜居シ時ニ時々再ヒ散（即細砂ヲ纏ヒ作ル巣ニシテ身ヲ容ルヽ巣ナリ）ヲ成テ闘蔵ス寒明ケノ頃ヨリ発生シ初ハ極メテ細小ナリ日ヲ遂フニ従ヒ成長シ終ニ五六分ニ至ル俚俗之ヲホニカハムシト云フ又一種大黒カハ虫ト変スルモノアリ形扁平長サ彼ヨリ短ク幅濶ク沙粒ノ大ナルヲ纏フ其巣ハ甚外散大ナリト雖モ虫身ハ却テ小ナリ故ニ餌料ニ用ユル事少シ釣客ハ先ツ寒明ケヨリ此沙蚕ヲ需メ獲テ鮎ノ釣事ヲ知ル自ラ其時候ヲ問フスヘニヨルナリ

蟲ヲ餌料ニ供スルニハ頭部ヲ摘ミ殻ヨリ出シ爪ヲ胴ヲ切リ其
尾端ヲ鉤ニ刺ス又之ヲ養ヒ置クニハ細キ竹箸ニテ拾ヒ捕リ
笊又ハ畚等ニ入レ小溝ノ流レニ浸シ置クトキハ数日ノ生活ヲ保
ツベシ若シ流水ニ遠クシテ浸スヿヲ得サル地ハ笊ニ入レ折々
淡水ヲ注ギ掛ケ風ノ侵入セサル所ニ置テ而シテ蕎ノ葉ヲ以テ
覆フベシ 虫ハ甚葉ヲ食フヿ恰モ蠶児ノ桑葉ヲ食フカ如シ
六七日ハ容易ク養フヿヲ得ルナリ
按スルニ本文ノ虫ハイサゴムシ 又ダイコムシヲ指スカ如シ
蟲ハ五月ヨリ羽化スルニヨリ五月ニ至リテ止ムヘシ 其数ノ羽化シ
タルモノハ釣魚ニ用ユルヲ目禁ス
十年二月十四日 田中芳男記

紙儀板

孫太郎蟲解説

宮城縣下磐城國刈田郡齋川産孫太郎蟲ハ古来同地有
名ノ産物ニシテ串差ノ乾物トシ販賣ス昧者小児ノ癇ノ
藥ナリトシ专ニ用ヒラル故ニ遠地ノ者モ其形状ヲ知ル然レ
氏其羽化スル形ニ至リテハ更ニ知ルモノナシ或ハ源五郎蟲ノ
児ナルベシトノ説アレ氏源五郎蟲ノ児ハカハガデト称スルモ
ノニシテ孫太郎蟲ト同ジカラズ因テ久ク疑ヲ存スルニヨリ宮城
縣七等屬中澤潤二氏ニ其蟲物ヲ得ンヿヲ依頼ス氏ノ帰縣
スルヤ速ニ其地ニ就キ串差并酒浸及羽化ノ者ニ解説ヲ添ヘ
贈レリ然ルニ輸送中羽化ノ者ハ鬚脚ヲ損シタレ氏東京ニテ

此虫ノ飼料ニ供スニハ頭部ヲ摘ミ殻ヨリ出シ爪ヲ胴ヲ切リ其
尾端ヲ鉤ニ刺ス又之ヲ養ヒ置クニハ細キ竹箸ニテ拾ヒ捕リ
ハゴロモムシト称スル者ナリ始メテ明瞭ニ至ルハ全ク氏ノ賜ナリ
因テ同氏ニ示シテ後整頓シテ小函中ニ収メ永ク考證ニ備
ヘントス因テ其由ヲ記ス

蟹庵因渇木彦 孫右衛門曰トテ 尾長ノ串差
ハ串長ニテ五寸許ニテノ串ニ五匹差シテ
アリ形ハ大丈夫也小ナルモノ二種アリ 直形ニ主
ソテノハ美ハシ 九月十六日記

明治十六年八月四日　東京　田中芳男

教育博物館中孫右衛門出

串刺　八串
アルコール漬　壱鑵
羽虫　三匹
外ニ
甲虫　壱匹
是ハ磐州ニ係ルモノ

蚕ノ飼料ニ供スルニハ頭部ヲ摘ミ殻ヨリ出シ爪ヲ胴ヲ切リ其
尾端ヲ鉤ニ刺シ又之ヲ養ヒ置クニハ細キ竹箸ニテ除ヒ捕リ

右之品甚タ乍御手数御願申上候
追テ右乃代価書御添申上候也
但貨物ニ係ル先払ハ当方ニテ支払可申
候
六月廿七日 中溝潤二
田中先生
侍史

農商務省農書編纂係
田中元老院議官殿
親展

……
回答乞ふや
明治十八年二月十一日
農商務省田中書記官 鈴木芳八郎
宮城県七ヶ浜村 中溝潤二殿

去ル廿四日差出ヲ以テ秘密書類

逓送ノ分繕補書類添中ニ也

但領収證ハ先ハ夫ニテ引取申候

[illegible]

宮城県農商課

中沢潤二

六月廿七日

本月一日付ヲ以テ郡内斎川村ニ差出シ候

ル孫太郎　右田口比安雄学上寄贈

用ニ供スル為田中議官ヨリ依頼ノ趣

御照会ニ付新町ヘ至リ潤

指シ候処子現物ハ五補業

条尚追テ発見ノ節ハ差送付可候以

小笠一冊差別候間法段及御

回答候也

明治十八年六月十一日

栗田川田雅書記鈴木藤八郎

宮城県農商課中沢潤二殿

二件猶特勧業委員ヨリ照会ノ間
池田停止

宮城縣川田郡斎川村（方言）
孫太郎虫ノ生来

一該虫ハ常ニ水中ニアリ石底ニ生長シ七月上旬ヨリ八月上旬迄ニ孵化スルモノ最多シ九月ニ至リ脱皮シテ翌年五月頃更ニ羽虫ニ変化シ恰モ蜻蜓蜉蝣ノ生来ト同ニ而シテ春夏秋ノ三回ニ孵化ス夏秋ハ至テ稀少薬用ニ供スルモノハ多分第一回ノ春ニ産ナリ

捕獲期

一年ニ三月中旬ヨリ五月中旬迄ヲ最好期トス壚中ニ在ル亜爾児ル漬ノ大ナルモノハ前年第一回春ニ産ノ遅キモノ又小ナルモノハ第二回夏

産ニシテ未タ脱皮セサルモノナリ脱皮或ハ孵化
セントスルモノハ容易ニ捕ルヲ得ヘシ

孵化後

一 毎年五月中旬ヨリ七月中旬頃間ニ羽虫ニ
化シ而テ雌雄始メテ判リ昼中ハ水辺ニ草根
ニ潜伏シ薄暮ニ至レハ水上ニ飛游シ其ノ
挙動恰モ蜉蝣ニ似タリ顧フニ此時産卵
セシ然レトモ未タ曾テ其卵ヲ見シモノナシ

孫太郎虫ノ名称原因里俗傳言

一 宮城縣磐城國刈田郡斎川村ニ産シ永保
年丹波國守某公ノ家臣橋立金吾之追
國守ノ名代ニテ出雲大社ヘ参詣ノ途上同家
中何某ニ殺害サレ養子要人仇ヲ復セン
トテ幼稚ノ時養育ヲ受ケタル斎川村ノ百
姓郷助ヲ尋ヌ共ニ図ラント妻櫻戸ト郷ヲ
出要人先ツ発足シ途中山賊ニ殺サル妻夫ノ訃
音ヲ聞キ大ヒニ驚キ歎ノ暫アリテ妻男子ヲ
産ム孫太郎ト称ス生来多病母常ニ
之ヲ直憂苦シ神仏ニ信ス偶ニ同村ノ鎮守
田村神社ニ祈ル或夜霊夢アリ社前
ヲ流ルニ斎川ノ水中ニ陰モ百足虫ニ似タ
ル虫アリ之レヲ喫セシ出ヒハ必ス病ヲ治ス該
虫ハ孫太郎ノ持病ヲ治シ仇ヲ報セシカ為メ
汝カ亡夫虫ニ化シテ社前ノ川ニ流レ来ルト

夢ノ忽チ覚ヘ驚ヒテ社前ノ川ニ至リテ石間ヲ
探ツレハ果シテ虫アリ之ヲ孫太郎ニ服セシムレハ
疾病忽チ治セリト云フ当時出石ノ守領般若部
判官公ハ代官某ノ耳ニ達シ代官捕吏ヲ
四方ニ遣シ山賊数名ヲ捕ヘ且ツ妻桜戸
ニ見セシムレハ果シテ前ニ見シ所ノ山賊共ナ
リ夫ヨリ丹波公ハ厚ク賞シテ遂ニ仇ヲ討
セシト云フ今尚田村神社アリ郷ノ宅地跡
アリ里俗斗ニテ斎ハ屋敷ト云フ同村字
作ノ崎ニ桜戸薬師アリ此ハ桜戸ノ建立ニ係ル
モノナリト云フ孫太郎虫ノ名称此時ニ始マ
ルト爾云フ

容易ナラサルヲ以テ刈田郡産物方御用掛
等ニ命シテ鮒ヲ取リ孫太郎虫ヲ捕獲方依頼
致シ置キシカ当又孫太郎虫ハ絶ヘテ鮒ナシ
ナク治ルナク十二月ノ郡斎川村ヘ掛合ノ法書ヲ
送リ[illegible]農夫ト共ニ手ヲ他ニ転シテ捜索シテ終
ニ絶セシモノ若水中ニアル所ハ捕獲ヲ止シテ行ク
[illegible]ニ絶ヘ或ハ脱皮ニ係ルモノ及卵子ハ道ニ発見
セズ最モ卵子ノ発見スル地域ハ数百年ノ久シキ経験
アレ共地方ノモノ道ニ発見スタルナシト云フ農夫ノ云ク
毎年ノ河上飛行スル時卵ヲ水中ニ落シナラシトト思
フトモノ独リ[illegible]ヲ糸トセズ此ノ捕獲セシモノハ孫太
郎虫ノ絶ヨリ以後ノ掛ノ以上此道遠名ニ至リ

柿樹上ヨリ
ニ付タル怪
又葉田ノ
ル樹枝葉ニ
ニ発生シ秋
清モ此ノ
又「イボタ」蝋
之ヲ蝋ニテ
ノ如キナル物
陶器ニ移シ温気ヲ去レハ結晶シテ宛モ雪ノ如クナル蝋
トナル此蝋顆粒ヲ以テ類ル甚タ之ヲ融解シテ「ハラビン」
ト称スルモノナリト云フ此蝋暑ヲモ甚タナル結構
等ノ部分ヲ多ク漆ノ代ヘモ蝋ニシテ雲ヲ用モヌ又著シ
キモノナリト云フ我レ先時トシテ果園ニ蔓延
スル了アルヲ以テ無果殖ニ難シトス依テ果園
等ニ害ナキモ川水地堤防地等ニ無果殖セシムル
方ニ益アル出ナリ此虫ノ本名何ト称スルモノカ
右ノ件ハ最前ヨリ[illegible]
御照会ニ[illegible]
報告候也

十六年二月十六日　樫村[illegible]

農務局[illegible]
中澤[illegible]殿

柳樹上ヨリ怪虫落タリ又郡衙ノ持参ト報
ニ付タル怪虫若干個ヲ得タリモ何タルヲ知ラズ
是又柴田刈田郡中堤防地等ニアル「イホタ」ト称ス
ル樹枝葉ニテ殊ニミテ菜種ノ如クナル甲虫当今盛
ニ発生シ秋季ニ至テ恰モ白木ノ如ク附着シ遂ニ
清白ノ白粉ヲ成ス言木油並光沢油ト称シ
又「イボタ」蝋ト云フ此虫原名ヲ知ラズ此白粉ヲ
採リ湯ニテ溶解スレバ油トナリテ中ニ一種ノ蝋
ノ如キナル粕アリ之レ虫ノ売ナリ木蝋ニテ溶リ
陶器ニ移シ温気ヲ去レバ結晶ヲ以テ白雪ノ如クナル蝋
トナル此蝋顕微鏡ヲ以テ類ル等至テ勝束ヲ「ハラビン」
ト称スルモノナリト云フ此蝋器ヲ熱至サレ経機械
等ノ部等ク漆ニ代ヘ蝋ニシテ需用モ又著シ
キモノナリト云フ飛ヒ去ル時トシテ桑園ニ蔓延
スル事アルヲ以テ桑蚕ニ益ナシトス依テ桑園
等ニ害ナキモ川辺地堤防地等ニ繁殖セシムル
ハ無謬虫ナリ此虫ノ本名何ト称スルモノカ
及御ノ御教示ヲ御願上申候
御調査ノ上御報告ニ此虫称御返依
報告如此

十六年二月廿六日　稲邦公平

御省農務局課
中澤潤三殿

本文質問ニ係
甲虫
現品
イボタ樹
是ハ巨
右ニ頭ノ甲虫
リ為リ

…蔵タリ又郵衙ノ捕円ト品称
…ヲ得タリモ何タルヲ知ラズ
…堤防地ヨリミアル「イホタ」ト称ス
…菜種ノ如クナル甲虫当今塁
…ヲ虫ノ如ク附着シ言ヒヨ
…言ホ油並光沢油ト称シ
…虫其原名ヲ知ラズ此ヲ粉ヲ
…スレバ油トナリモ中ニ一葉蝋
…レ虫ノ売ナリ本綿ヨテ浸リ
…レハ結晶ヲテ其形ノ如クナル蝋
…類ヲ発至シ願来ヨテ「ハラビン」
…此蝋ヲ至ルナル結機械
…ヘキ嫌ニシテ需用モ又著シ
…シ其時トシテ栄茂ニ蔓延
…殖ニ蕃シトス依テ栄茂
地堤防地ヨリ繁殖セシムル
…虫ノ本名何ト称スルモノヤ
…ヲ御違シ候テ上申シ
…報告ニ此段及申候

椎野公平 花押

…課
渡辺…殿

本文質問ニ係ル
甲虫 弐頭
現品差添
イボタ樹 壱枝
是ハ巨大ニ付添付セス
右二頭ノ甲虫イボタ樹ニ附着セル虫ノ本名
リ為メ気ヲ乞フ

ザヾムシ　此佃煮ハ各人ニ分ツニ唯タ知人アリシ

明治十八年四月八日山林局ノ北原大議智ヨリ此虫ノ佃煮一曲ヲ贈リタリ
該品ハ長野縣下信濃上伊奈郡返下村松沢清吉ヨリ同人ヘ贈ヘタリ
長サ一寸許ノ扁平之川虫ニシテ外ニトビケラシアミカヽラミシノ三品
ヲモ混交セリアミカヽラミシ上ニ蛆状ニテ纖長キモノ石蚕ナリ食シテ最
美ナレド較々屋味ニ過クトビケラシ是ヲ湯泊之味ナリ孫太郎虫ハ最
大ニシテ太シ而シテ此ザヾムシハ助蜻蛉属ノ川虫ニシテ助代生虫
ノ羽化スルヤ九月此虫ノ天龍川ノ縁ニ溜メ居リ森中ニ居スルヽ
之ヲ捕ヘ取畜其取人ニテ川ヨリ挿草ヲ持来テ桶ニ入レ塩ノ
中央ニ至キ日暑ノ寒至ル一ヽ塩ノ中ニ入レ之ヲ煮テ淡クシテ

Pteromarcys ?

但旨トナスノミ 淡地ニテハ大ニ賞味ス 其時ヲトラヘ 捕ヘ時ハ實中ナ（川筋ノ漁夫ハ多ク之ヲ採リ）
眼ニナス 燭ノ華ナリ 其ノ味ハ虫ニ苦味ヲ生セテ味大ニ者ヘト云フナリ
又此名ハ其ノ由サザムシ 最多クテ味美ナリトナフ
佃煮ニナス人 虫ヲ湯ニ浸シテ捷ヘ 頭扁ニ鬚アリ長四分 胸ハ三個
ニ分レ二脚アリ 背上斑紋アリ 身ハ十節ニテ尖リ細ク末ニ二刺アリ長四
分許 鋭ナリ 食スベキ者ニ 口中ノ刺ヲ 味ハ何ナリ 佳ナル雌雄
大ナルハ一般ナリ 身ノ長ハ分ナリ 食スル方法ハ佃煮ヲ浸スベシノ無之
原色ハ淡黒ナルモ 是ハ石蚕ノ類ナル 彼ハ敵ノ第ナリ 是ハ重ナリ
水産名問ヲ御回ニ 後代ニテ 蜻蛉除ニ供シ 羽虫トナル

十八年四月八日

田中芳男記

9 水産有効虫類

蜉蝣（ヒヲムシ） サクムシ サケベツトウ

此蟲（下）利根川下總國邊ニ産シ秋彼岸頃鮭魚ノ上流ニ登ラントスル
ニ先ダチテ群ヲ飛ス朝ニ出テ日没ニ死シ水面ニ浮ブヿ布ヲヒキハリ
タルガ如シ 利根川付ノ漁人ハ此蟲ノ多キヲ以テ鮭魚漁ノ豊凶ヲ
トス 其形ノ蝶ニ似テ長六七分頭ニ二白鬚アリ尾ニ二毛アリ之ヲサケ
ベツトウト云フ 和名鈔巻九 蜉蝣（ヒヲムシ）唐韻ニ云蜉蝣 漢語抄ニ比乎無之ナル
ベシ 又朝ニ生暮ニ死スル虫也トアリ 藻鹽草巻十二ニ云 蜉蝣ヒヲムシ且ニ
生ジテ夕ニ死スト書リ 大坂淀川ニテハアサガホト云フ 越後名寄ニ
「サケゴ」又「サケベツトウ」「サカヘツトウ」等ノ名アリ 廣雅釋蟲ニ
朝蜉ハ蒸母也トアリ 一ニ越後ニテ「テウマヘツトウ」トモ云ヨシ 此モ

ノナリサケベヌトウレバ云フハ用捨箱下巻ニ見エ[illegible]ヲ出ヲ夕顔別當ト云フガ如シ蝗ヲ實盛ト云フモ原ハ稲別當ナト云シヲ坂東農民長井別當ノ名高キヨリ誤リシ實盛ト云ヒシヨリ訛リシト云フ

明治十二年六月六日夕　河原田盛美識

一此虫昼間ハ静止シ薄暮ヨリ飛翔スト云フ

カトンボ　一名正靈トンボ

静岡ニ産ス　蜉蝣ノ属ニシテ旧来湿地ニ名アリ正靈トンボノ称ハ由井正雪ノ靈化シテ此虫ニナリシトノ説ヨリ名ツケタルナリ　余ノ実地ニ就キ目撃セシハ明治十二年四月二十二日ナリ同日浅間社ヘ至リ境内公園ヲ巡リ其山ヘ登リタルニ随所ノ堂宇門墻ハ勿論名燈及階樹木等ニ棲息スルモノ夥シク其地ハ湿地ノ起ス者ノ数キタル如シ同境内ニ夥多ナル了知ルヘシ尤モ同地ノミナラズ此辺一般ニアリト雖モ殊ニ多キヲ覚エタリ　而シテ此虫ハ釣魚ノ餌ニ用ヒ大ニ利アリ

米国ニ於テ「マイフライ」（五月蠅）ト云ハ即前条ノカトンボニシテ五月ニ多ク出ルニ因ルナリ

蜉蝣ノ属ハ其種類甚多シ其幼形ヲナス間ハ皆水中ニ居

農商務省

間ニ挿ム琵琶湖ヨリ出ル河辺ニテ四月下旬捕リ釣魚餌ニ用
ユヽサ是レハ形カトンボトハ異ナレリ 磐梯斎川ノ孫太郎虫
及山口虫ノ水蠆同庭（…）ノ類虫ス 又同類ノモノ多シ
イサゴムシ ダイコクムシ モ亦此類ノ小ナルノ虫ニテ此虫ノ羽化シテ出
ハキ直ニ朝生暮死ニハアラザレド至テ柔弱ナルニヨリ風ニ吹カレ
雨ニ触レテ又鳥雀ニ啄マレテ容易ニ死スルニヨリ朝生暮死ノ
逝リ起ルナルベシ 然ラバ何日蛹居シテ子孫継續スルヤ 恐ラ
ハ羽化シテ未タ飛翔セザル前ニ蛹居シテ散卵ノ後飛翔スル
モノナルベシ 東京ノ地ニハ此類ノ虫アリト雖モ多カラス 又大黒虫
ハ姿見川ニアリト云フ 箱根湖ハ大黒虫ノ所産ニ多キ所ナリ
大黒虫ノ形ハ此蛆ノ水中ニアリ身ニ纏フニ小石ヲ以テス 其石ノ大サ
左右大ニ末ノ左右小ナリ 蟻ノ方ニ又一種アリ 恰モ大黒天ノ米苞
上ニ立リ形ニ似タルニヨリ名ケシ也 素防害ノ心ヨリ致ス所ナリ

前条カトンボハ四五月ノモノナルニ我彼岸ニ出ル利根川
虎サケムシハ何故ニ其朝ヲ異ニスルカ 又越后名岩ニハ
名アルモ発生ノ時ナキニヨリ今此ニ此類専ラ抄キシテ其
代スル時節ヲ知ラシム
渋海川（シブミガハ） サカベツタウ 我国ノ俚言ニ蝶ヲベツタウト云 渋海川ノ
辺ニテハ サカベツタウ 白蝶ハ諸蝶ノ和訓カハヒラコト云フ 新撰字鏡ニ見ヘ
タリ サトハ サカベツタウノ名義未タ詳ヘズ 前ニ云フ 渋海川ノ春緒岸ノ
頃 無数ノ白蝶 水面ヲ二三尺ヲ離テ羽モ又合ハカリ群スルガ高ク一
叔保両岸ヲ限リトシテ川下ヨリ川上ノ方ヘ飛行ソノ形状夜ノフヾキト見ヘ
ハタロカサリノ 幾里トモナキ流ニ塵リモ見ヘ如ク朝ヨリ夕マデ飛テ川上ヘ一フキ
タルガ 其限リヲシラズ 水モ見ヘヌ程ナリ サテ日又暮ホトナルニ至レハ皆水面ニ落
ヘリテ流下ル 其サマ白布ヲ流スカ如シ 其蝶ノ形ハ蜉蝣ホドナル白蝶ナリ 我
国ノ大河ノ川ト異流ニ見エ中ニ此渋海川ノミニ限リテ毎年 多カハ大ホ了

農商務省

すんも奇トスベシ 然ルニ天明ノ洪水以来此事絶テ无シ
本年ニ至リ始テ人ニ石盤一面沈没シ上ニテ 山川ノ石上ニ附テ繭ヲナシ為蓋羽
化シテ小蛾トナリ水上ニ飛ブトミヘタリ 伴ノ ナカベツタリ ハ渋海川ノ石
盤也 其夜ノ洪水ニ流レ尽シタルニテ 絶タルナルベシ 他国ニモ石盤ア
生ズル川アラバ 此ノ限リニアラズ 知ルベカラズ 今此川ニ見ザル故近隣ノ
老婦 本年ニテ 渋海川ノ辺ヨリ嫁セシ人アリシニ 尋ネ問シニ 其
婦ノ話シノマヽヲ記セリ

六月六日夜リ思ひこり此段ニ落チ行ク 安田蔵ヲ
注二百ノ
三百九十 近年三迄遂テ此川ノ隣ハ 山口驛下浦原郡ハ
四千人九人 九州長門ニ分テ他ノ村 又多羅
下伯者八幡郡寺泊ニ 帰メ 出テ 四千方ハ 吉ヘ十四年ニ
西千方ト 旧村 今ノ村 ハ 中ハリ 海辺ニ中 東宮
カリヤ又ニ 移ルナリ 令ク 田邊山 ヤリヤ村 名ハ
西年 附近 年ニ 中ハ 志摩 英虞郡 鵜方村 大矢喜左衛門
四千 名 ヲ 全国 ニテハ 唯 紫色ニ 塗リ 成ル
沢ニ 属指 雌ノ 此紫色ニ 料ハ 為 島ノ 黒ヲ 著カヌ 沢
学問 衛生 ノ 見分 西洋 元祖 陸 若 ハ 此 字料 ノ 用ヒ ヨリ 行フ
又 貴従 東山 梅ニ 手中 名ヲ 和ス 論 ル 要 東 翁 ノ 説 之
両 虎 ニ 見ツ 丹 州 手 武 藤 ニ 義 其 山 又 胎 生 ニ 論 ス 是 ハ
本名ノ 子ヲ

便ハ心
人一層ヲ
ヨリシテ
唐九ハ
一四ニ二個
ヨリ一四
二三五百
其向ハ全
ヨリ分子
地ニ以
四行
金九

ハ実ニ然ルニ云フ 此卵ヲ海螺ナリトスルノ説ニハ擱筆遺筆ス
動ナリ 又多肢類ニシテ頭嘴ノ類ハ屈曲シテ柱状ナリ
彼ハ軟体類ニ屬シ其形ハ貝類ノ如シ 吸甲殻ナキモ
亦背上ニ紫色ノ液ヲ出スモノアリ 蓋シ何ニ由ル
軟骨類ナリ 一片ハスルメニ軟骨ノナシ 海鹿ノ類ナリ
土佐方言ナリ 又タ甲ハ其甲殻大ニシテ厚ク 外表ノ如シ
水底ヲ匍フテ遊泳ス 甚ダ見易シ 原来ハ脱殻類ハ各殻ヲ作ルモ
時々水中ニ出テ成長シテ脚ハアヲサヲ印ス 其ノ十三 然ルニ此話蛙ノ
海鹿ハ其ヤウニ形態ヲ成シテ 静ナルノ カトンボ 一名
ハ胃下面ヲ群飛スルモノ是ハ蛸ノ事ナリ アノ卵ヲ毎月飛虫ノ義
ナリ カトンボニ似シ 此他 イサゴムシ 大黒虫類大抵 蛸ニ似タルモノナ
ルノ故ニ サクムシ 雲鉄岸ニ在テハ 一種異ナル種類モ見受けし

十二

何某田

農商務省

車渠貝ノ説

車渠又 硨磲トモ書ク 音通ニシテ 同他字ニ通ヅ 佛書ニ 瑠璃玻璃
硨磲 瑪瑙ノ諸アリトス 寳石ノ類ニ入ルモノハ 其質堅白ニシテ 真ニ
玉ノ如キニヨリ 然ルニ此者ハ 柔體類ノ双殻属中 最巨大ノ介ニシテ 其
大ナルハ 径四尺ニ達ス 故ニ 水鉢トシテ 賞翫ナルモノ 水ヲ満タシテ 陶器ノ
鵬ス丼ハ 沢ナリ 黒色トナリ 其外観ヲ損スルモノアリ 此旋動ハ 個々ナリテ
琉球諸島ニ 四海ナリ 最大ナルモノ 方言「スワリガイ」ハ即チ此ノ者
ニテアリ 他ノ種ハ 巨大ナルモノ見ズ 但シ其巨大ナル者ハ 南洋ニ在リ
アリト 又 小笠原島ノ産ハ 琉球産ニ異リテ 長形ナリ 最大ナルモノ 一尺
許ニ足ラズ 但シ厚サ一寸ノ 介殻ニシテ 白石ノ如キ
此介殻ハ形状ノ雄壮ニシテ 雅観ナルヲ以テ 前述巨大ナルモノノ外
小ナルモノハ 卓上ノ置物又花瓶ニ用ヒ 又ハ截断シテ
小置物ニ作リ 又印材トナシ 碁石ニ作リ 文鎮 風鎮 等ノ作ニ用
小人ノ好ム所 截断シテ 小置物ニ作リ 実ニ無数ナリ

第二回水産博覧会審査事務局

其背ニ比失行蟲ハ火又湯ニ備ヘテハ光彩アリシテ品佳ナリ
又其升ノ田ハ食スベキモノニモ非ス 産地ニ於テハ煮食シ又乾脯トナシ
テ貯ヘ 殊ニ数丈ハ魚ヘベカラス 又其身中ニ往ヽ直珠ヲ含ムアリ
白色蛍光ニシテ圓形ナル比 光角ニ湯煮シテ含ミ之ニ出タシタベシ
多キアリテ 蛍光ヲ失ヒ又鱗裂ヲ生シ易キノ憾アリ
南海群島ニ持来ルハ大小数ハ凡二三寸アリ 内面ノ周囲鮮紅
若クハ鮮黄色ナリ 是ハ義髄ナルヲ以テ装飾ニ用ヘベノ 又セラ
ヌラ義スベキハ未タ知ヘシテ見サルモ
以上西人ノ説ヲ取リ 田中芳男ナリ表シテ一ノ珠ニ呈スルニ其字
乃爾ナラン
明治廿年大日本 ナシ　宇都宮偉言謹識
ミテ　田中芳男九

東京農商務省 ... 出品

明治廿年九月十七日近江郷西方海浜ニ於テ四水産博覧会出品 優等

肥前國南高來郡諫早田製

有明海産

皮剥蝦 之ヲ擂海老(スリエビ)ト呼ブ

他人ハ之ヲ諫早海老(イサハヤエビ)ト云フ

中國九州四國等ノ海ニ産スル蝦ト異ナリ 味殊ニ優也

石井邦猷　麻布区仲ノ町十七番地
石原豊貫　本郷区根津西須賀町十六番

伊豆加茂郡辺ヨリ
川蝦ヲ漁スル網
但シ三四尺ノ竿頭ヘ
挿シ用ユ左右ヲ
曲ケテ上ヨリ押ヘレバ
蝦ハ逃ケテ網内ニ
入ルヲ捕ヘ至テ容易
且ツ迅カナリトス
十四年十月八日
片山直人氏恵ム

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館